

第 29 回 賀茂地域広域連携会議

令和 3 年 10 月 28 日（木）14 時～16 時
下田総合庁舎 2 階 賀茂キャンパス

次 第

1 情報共有

(1) 新型コロナウイルス感染症関連

ア 感染症防止対応（賀茂健康福祉センター）

資料 1

イ 国、県、市町のこれまでの対応（賀茂地域局）

資料 2

(2) 歴史・文化資源を活用した広域連携事業（伊豆観光局）

資料 3

(3) 市町DXの推進への支援（デジタル戦略局）

資料 4

2 報告事項

(1) 教育委員会の共同設置専門部会（教育政策課）

資料 5

(2) 静岡県ごみ処理広域化及び処理施設の集約化の推進（廃棄物リサイクル課）

資料 6

3 協議事項

少子化社会における教育の維持

資料 7

第29回 賀茂地域広域連携会議 出席者名簿

令和3年10月28日（木）14時～16時

静岡県下田総合庁舎2階 賀茂キャンパス

○賀茂地域広域連携会議

所属・役職等	氏名	備考
静岡県特別補佐官	土屋 優行	
下田市長	松木 正一郎	
東伊豆町長	太田 長八	
河津町長	岸 重宏	
南伊豆町長	岡部 克仁	
松崎町長	長嶋 精一	
西伊豆町長	星野 浄晋	
静岡県議会議員 《参与》	森 竹治郎	

○出席者

所属・役職等	氏名
下田市企画課長（幹事）	鈴木 浩之
東伊豆町企画調整課長（幹事）	森田 七徳
河津町企画調整課長（幹事）	川尻 一仁
南伊豆町企画課長（幹事）	菰田 一郎
松崎町企画観光課長（幹事）	深澤 準弥
西伊豆町まちづくり課長（幹事）	長島 司
美しい伊豆創造センター専務理事	植松 和男
美しい伊豆創造センター事務局長	瀧口 浩一
静岡県知事直轄組織デジタル戦略担当部長	山口 武史
静岡県経営管理部地域振興局参事（東部総合庁舎駐在）	片岡 達也
静岡県くらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課長	村松 俊明
静岡県教育委員会事務局教育政策課長	中山 雄二
静岡県教育委員会静岡東教育事務所地域支援課参事（賀茂地域教育振興センター駐在）	土屋 真由美
静岡県東部地域局伊豆観光局長	柳川 典之

（裏面あり）

○出席者

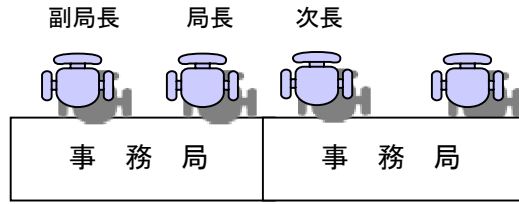
所属・役職等	氏名
静岡県賀茂広域消費生活センター所長	松永 俊乃
静岡県下田財務事務所長	原田 直彰
静岡県賀茂健康福祉センター所長	田中 尚
静岡県賀茂健康福祉センター医監兼賀茂保健所長	本間 善之
静岡県賀茂健康福祉センター医療健康部長兼地域医療課長	塩川 尚子
静岡県賀茂健康福祉センター衛生環境部長兼衛生薬務課長	大木 正章
静岡県賀茂農林事務所長	藪崎 武彦
静岡県下田土木事務所長	榊原 正彦

○事務局

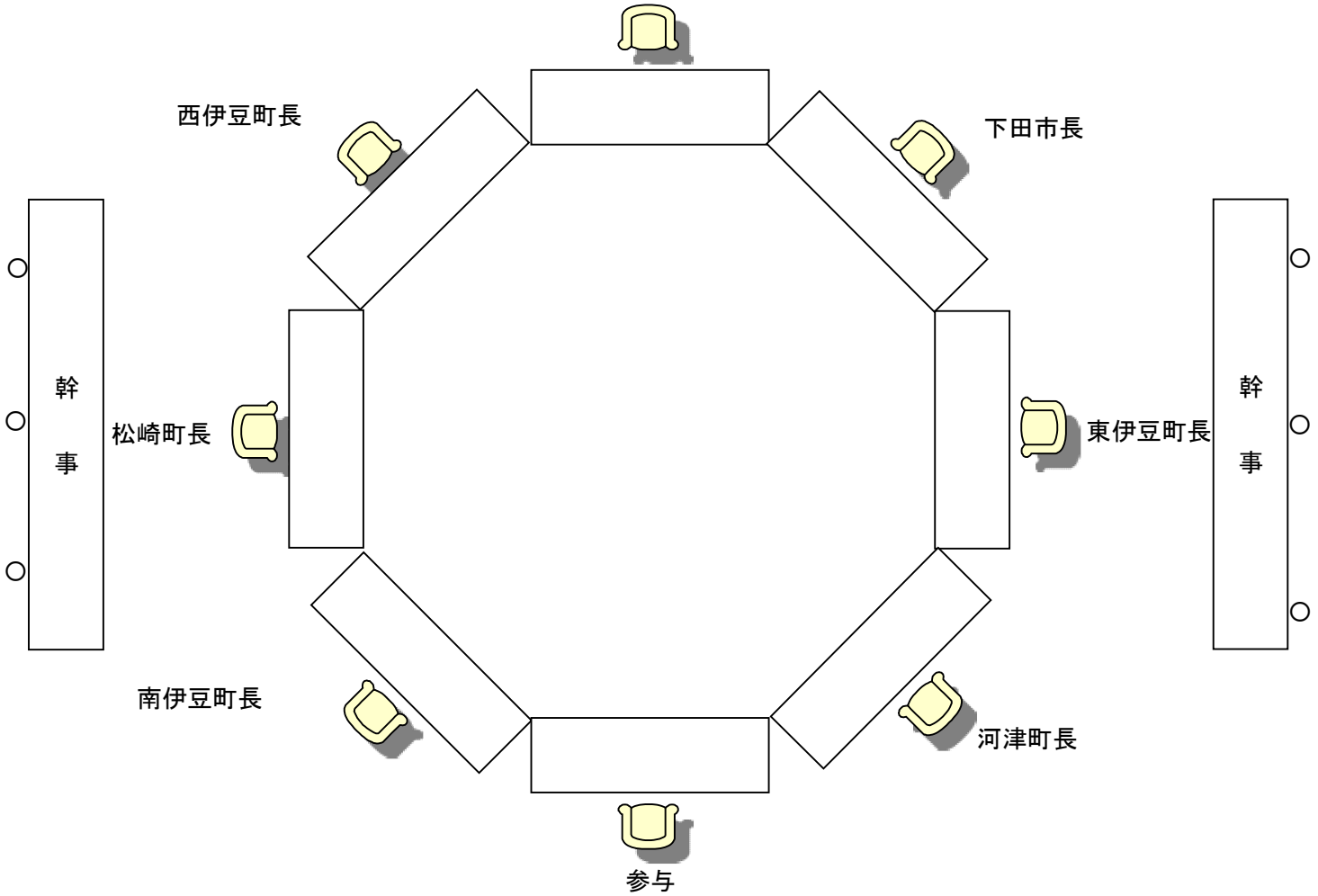
所属・役職等	氏名
静岡県賀茂地域局長	山根 正嗣
静岡県賀茂地域局副局長兼賀茂危機管理監	岩崎 泰克
静岡県賀茂地域局次長兼地域課長（幹事長）	青木 克裕
静岡県賀茂地域局地域課地域班長	飯田 雅之

第 29 回 賀茂地域広域連携会議 席次

令和3年10月28日(木) 14時~16時
 静岡県下田総合庁舎2階 賀茂キャンパス



静岡県特別補佐官



報道機関

教育政策課 伊豆観光局
 中山課長 柳川局長

デジタル戦略 デジタル戦略課
 山口部長

賀茂健福 賀茂健福
 田中所長 本間医監

報道機関

教育振興C 消費生活C
 土屋参事 松永所長

廃棄リ課 廃棄リ課
 村松課長

賀茂健福 賀茂健福
 塩川部長 大木部長

報道機関

下田財務 地域振興局
 原田所長 片岡参事

美伊豆 美伊豆
 植松専務理事 瀧口事務局長

賀茂健福 賀茂健福

報道機関

賀茂農林 下田土木
 藪崎所長 榑原所長

賀茂地域広域連携会議 テーマの検討状況

区分	テーマ (部会長)	開催時期及び 今後の予定	検討内容等
行政分野の連携	1	消費生活センターの共同設置 (県民生活課)	定期的に運営協議会を開催 ○「賀茂広域消費生活センター」を平成28年4月に設置
	2	教育委員会の共同設置 (教育政策課・義務教育課)	第17回 H30. 5. 7 第18回 7. 23 第19回 9. 26 第20回 11. 29 第21回 H31. 2. 20 第22回 R1. 5. 20 第23回 R1. 8. 27 第24回 R1. 12. 12 第25回 R2. 2. 21 第26回 7. 8 第27回 11. 2 第28回 R3. 2. 18 第29回 5. 17 第30回 (書面) 10. 8 ○「賀茂地域教育振興方針」平成29年2月21日策定(令和2年3月一部改正) ○「賀茂地域教育振興センター」平成29年4月開所(指導主事の共同設置) ○「静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学と賀茂地域1市5町との包括連携協定」を平成30年12月に締結 ○R2. 1. 24「賀茂キャンパス(賀茂地域大学交流拠点施設)」開所 ○11. 2 専門部会において、「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」、指導主事の共同設置及び専門部会での調査研究事項について協議 ○R3. 2. 6「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」 ○R3. 2. 18 子どもの歯の健康づくり等について協議 OR3. 5. 7 賀茂地域子どもの歯の健康づくりに関するアンケート調査の実施 OR3. 9. 17~10. 8 に第30回専門部会を書面開催。「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」等について協議 OR3. 11. 20(予定)「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」
	3	税の徴収事務の共同処理 (税務課・市町行財政課)	第5回 H29. 8. 17 第6回 9. 29 第7回 10. 24 今後、定期的に運営委員会を開催 ○「賀茂地方税債権整理回収協議会」を平成28年4月に設置 ○平成30年度以降の共同徴収の継続決定(平成29年12月15日基本協定締結)
	4	監査事務の共同化 (市町行財政課)	第2回 H28. 7. 7 第3回 10. 7 第4回 11. 25 ○「監査のあり方」を踏まえた、監査事務様式・マニュアル等の共有化 ○「賀茂地域監査事務連絡会議」の設置
	5	災害時における人的・技術的支援体制の構築 (土木防災課)	第2回 H28. 4. 25 ○『賀茂地域「ふじのくに災害復旧支援隊」派遣要領』平成28年8月施行 ○『静岡県「ふじのくに災害復旧支援隊」派遣要領』平成29年4月施行(拡大)
	6	地籍調査の共同実施 (農地計画課)	第6回 H28. 5. 24 第7回 7. 4 第8回 8. 9 第9回 8. 25 第10回 9. 26 ○「賀茂地域における地籍調査の共同実施に関する基本協定」を平成28年10月19日に締結し、「賀茂地域地籍調査協議会」を設置 ○共同実施を平成29年4月から開始
	7	地域包括ケアシステムの構築・運用 (長寿政策課)	第19回 H29. 6. 2 第20回 6. 14 第21回 6. 29 第22回 8. 9 第23回 8. 17 第24回 9. 15 第25回 10. 16 第26回 11. 15 ○「賀茂地域における介護事業所指定・指導監督の共同実施に関する基本協定」を平成29年12月15日に締結し、「賀茂地域介護事業所指定・指導監督推進協議会」を設置 ○県、賀茂地域1市5町及び民間(3師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会))が一体となり、「賀茂地域における住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指す基本協定」を平成30年2月19日に締結し、「賀茂地域健康寿命延伸等協議会」を設置
	8	技術的・専門的知識を要する事務の共同処理(技術職員の共同利用)(市町行財政課)	第1回 H28. 7. 7 第2回 10. 7 第3回 11. 25 ○『「技術的・専門的知識を有する職員」の共同利活用～「技術的・専門的知識を要する事務」の共同処理マニュアル～』策定
	9	公共施設の長寿命化、共同活用・管理(水道事業) (市町行財政課・水利用課)	第8回 H30. 1. 16 第9回 4. 17 第10回 7. 3 ○市町が策定する「経営戦略・水道ビジョン」策定に係る共通仕様書を取りまとめ ○同策定のサポート

区分	テーマ (部会長)	開催時期及び 今後の予定	検討内容等
	10 伊豆半島クリーン作戦	第4回 H28. 6. 17 第5回 8. 26	○平成27年度に15ヵ所（7市6町）で清掃活動を実施（約1,500人参加） （平成28年度は美しい伊豆創造センターが自主事業化）
	11 伊豆半島食の祭典	第6回 11. 7 第7回 12. 27	○平成27年度に伊豆半島内の道の駅7箇所を含め、全10回、物産展を開催 （平成28年度は美しい伊豆創造センターが自主事業化）
	12 伊豆半島周遊ルート の開発	第8回 H29. 8. 3	○南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会と連携した観光周遊モデルルートの策定、オープンデータの公開等
	13 歴史的建造物の保存・活用 における共同の景観まちづくり		○観光周遊サイト（デカケルJP）及び賀茂地区歴史的建造物地域資源調査結果の利活用
官民・民民の連携	14 若者定住 (賀茂地域局)	第1回 H29. 6. 6 第2回 7. 7 第3回 8. 2 第4回 9. 7 第5回 10. 5 第6回 12. 1 第7回 H30. 3. 16 第8回 4. 16 第9回 6. 13 第10回 7. 11 第11回 10. 12 第12回 12. 25 第13回 H31. 1. 28 第14回 3. 13 第15回 4. 23 第16回 R1. 5. 16 第17回 6. 25 第18回 8. 29 第19回 9. 26 第20回 12. 4 第21回 R2. 2. 18 第22回 7. 16	○「賀茂の子づくり」の理念を具現化した「高校生のKAMO マルシェ」「Wikipedia Town in 賀茂地域」「高校生が地域産業を学ぶインターンシップ」「賀茂地域ではたらくのりもの大集合！」を実施 ○移住相談受付窓口のワンストップ化を検討 ○相談初期受付時の対応機能の充実・強化 ○「賀茂地域1市5町の基本情報」のパンフレットを作成 ○転出入時任意アンケートの全市町導入（基本項目共通化） ○新成人に対する任意アンケートの全市町実施 ○第17～19回の専門部会において、「今後の若者定住専門部会のあり方」、「利便性の高い窓口づくり」、「賀茂の子づくり」及び「具体的な行動・推進装置づくり」を中心に検討・意見交換等を実施 ○移住相談窓口担当者向け相談スキルアップ研修会の開催（9/26） ○高校生のKAMO マルシェ 2019（11/4） ○児童・生徒向けアンケート（小・中・高の最高学年を対象）の実施 ○賀茂地域住民向けアンケートを実施し、定住意識に対する世代間の影響及び住民ニーズの調査を実施（R1.12～R2.1） ○R2.7.16 専門部会において、高校生のKAMO マルシェ 2020 について協議（コロナにより開催延期）

令和3年10月28日

新型コロナウイルス感染症防止対応

(賀茂健康福祉センター)

1 概要

新型コロナウイルス感染症の賀茂地域における状況、同感染症対策に係る本年度の状況等について報告する。

2 現状

①陽性者発生状況 (10月26日現在)

(単位:人)

月別	下田市	東伊豆町	河津町	南伊豆町	松崎町	西伊豆町	計
4月		1					1
5月	1	6			1	1	9
6月	2				1	5	8
7月	83	6	4	6	3	1	103
8月	39	10	3	18	5	11	86
9月	19	10	5	3		1	38
10月			1				1
計	144	33	13	27	10	19	246

②感染者集団(クラスター)の発生(上表の内数)

(単位:人)

公表日	事案	陽性者
6月20日	障害者支援施設(松崎町)	7
7月22日	ボランティア団体(下田市)	15
7月26日	接待を伴う飲食店(下田市)	8
7月27日	接待を伴う飲食店(下田市)	9
	バー(下田市)	8
7月31日	宿泊施設(東伊豆町)	5
8月19日	帰省した友人の集まり(松崎町)	9
8月28日	非営利団体(南伊豆町)	8(*)
9月27日	事業所(下田市)	8
計9件		77

* 県外居住者2人を含む(上表の外数)

・クラスター対応に係る拡大検査(県)

7月のクラスターの発生を受けて、飲食店関係などへの感染拡大を抑えるため、下田市及び関係団体の協力により、下田市内の一定の地域の飲食店の従業員や利用者などを対象とした拡大検査を実施

期間	会場	受検者数	陽性判明数
7月25日～7月30日	下田市民文化会館	957人	11人

・クラスター対応に係る拡大検査(下田市)

県の拡大検査の対象を更に拡大して、独自に拡大検査を実施

期間	会場	受検者数	陽性判明数
8月4日～8月6日	下田市民文化会館	426人	0人

③医療・相談・検査体制等

区 分	状 況
医療体制	<ul style="list-style-type: none"> ○陽性患者等受入れ対応 7室10床（2病院） ○入院受入機関患者等入院受入医療機関緊急支援（人件費等補助）、自宅療養体制整備事業協力金、空床補償、回復患者転院促進、自宅療養体制整備等により医療機関等を支援
相談体制	<ul style="list-style-type: none"> ○県の「発熱等受診相談センター」が、発熱等の症状を呈する人からの相談を受け付け、かかりつけ医のない人に受診可能な医療機関を案内 *令和3年度 管内相談件数 954 件（10月20日現在） 〔相談センター457件、保健所497件〕
検査体制	<ul style="list-style-type: none"> ○賀茂医師会の協力を得て、地域の医療機関において主に唾液によるPCR検査等を実施（9月30日現在 21機関） *令和3年度 管内検査件数 6,251 件（10月10日現在） 〔医療機関 3,357 件、保健所 2,894 件〕
患者等の健康観察体制	<ul style="list-style-type: none"> ○県の「自宅療養者・濃厚接触者観察事業」において県看護協会の相談員と連携しながら、各患者等の健康観察を実施
患者や検査検体の搬送	<ul style="list-style-type: none"> ○賀茂健康福祉センター <ul style="list-style-type: none"> ・患者搬送業務（当番制） *患者搬送車2台、検体搬送車等2台の計4台を配備 ・座位確保が困難な患者等の搬送のため、民間の介護タクシーと契約 ○賀茂方面本部（賀茂地域局） <ul style="list-style-type: none"> ・患者搬送業務、感染確認検査に係る業務（クラスター発生時等における検査業務の補助）、PCR等検査対象者搬送業務及び検査検体搬送業務（当番制） ○患者搬送に係る消防本部と県との協定により、緊急搬送に対応 <ul style="list-style-type: none"> ・下田消防本部及び駿東伊豆消防本部

④高齢者施設関係

区 分	状 況															
関係者等への感染防止対策の普及啓発（支援）	○クラスター対応研修会															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>対象者</th> <th>参加者数</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/17</td> <td rowspan="4">管内病院職員、管内介護老人保健施設職員等</td> <td>93 人</td> <td>Web形式 (賀茂キャンパス)</td> </tr> <tr> <td>7/5</td> <td>21 人</td> <td rowspan="3">関係者からの要望を受け、6/17開催時に収録した映像を上映 (賀茂キャンパス)</td> </tr> <tr> <td>7/6</td> <td>12 人</td> </tr> <tr> <td>7/8</td> <td>25 人</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	対象者	参加者数	備 考	6/17	管内病院職員、管内介護老人保健施設職員等	93 人	Web形式 (賀茂キャンパス)	7/5	21 人	関係者からの要望を受け、6/17開催時に収録した映像を上映 (賀茂キャンパス)	7/6	12 人	7/8	25 人
	開催日	対象者	参加者数	備 考												
	6/17	管内病院職員、管内介護老人保健施設職員等	93 人	Web形式 (賀茂キャンパス)												
	7/5		21 人	関係者からの要望を受け、6/17開催時に収録した映像を上映 (賀茂キャンパス)												
7/6	12 人															
7/8	25 人															
○感染症対応研修会																
管内介護・福祉施設等職員を対象として、8月に管内3か所の会場で開催を予定していたが、感染拡大を受けて延期																
*11月開催予定																

⑤飲食店関係

区 分	状 況
飲食店への感染防止対策指導	○食品衛生監視の機会に併せて、感染防止対策に係る啓発及び指導を随時実施

3 課題及び対応

課題① 感染防止対策等の継続

区 分	内 容
基本方針	○緊急事態宣言は解除されたものの、基本的な感染防止対策の徹底について、市町を通じて引き続き住民等への周知を継続 ○県は市町と連携して、自宅療養者に対する生活支援等を実施
対 応	○住民等への啓発のため、市町に対し、県からのメッセージを随時、情報共有

課題② 誹謗中傷対策の徹底

区 分	内 容
現 状	○クラスター事案において、患者やその職場の従事者等に対する地元住民からの誹謗中傷など、人権が脅かされる事例が発生
対 応	○感染防止に関する正しい知識を身に付けるとともに、「感謝」と「思いやり」の心を持って協力して支え合うことの重要性について、引き続き住民に対して啓発

課題③ 新型コロナウイルスワクチンの接種

区 分	内 容
現 状	○管内市町の2回目の接種率は、高齢者で90.94%、全年代で77.39%に到達（詳細は下表参照）
対 応	○国において第3回のブースター接種が検討されており、今後、各市町が県担当課等と連携して接種体制を構築

・管内市町ワクチン接種率（%）（令和3年10月24日時点）

	高齢者		全年代	
	1回目	2回目	1回目	2回目
下田市	90.39	90.01	80.14	79.19
東伊豆町	90.74	90.13	78.25	76.12
河津町	91.57	91.10	77.51	76.80
南伊豆町	92.50	92.13	76.25	75.25
松崎町	92.44	91.75	80.01	78.26
西伊豆町	93.62	92.89	81.73	80.45
管内	91.54	91.02	79.15	77.88
静岡県	92.44	91.29	75.05	66.01

* 1 ファイザー社ワクチン接種が開始された時期に、集団免疫が成立すると一般的にいわれていた数値は70%

* 2 イスラエルやアメリカでは、必要回数（主に2回）のワクチンを接種した人の割合が人口の4割前後に近づくと、新規感染者の抑制・低減傾向が上昇

令和3年度 新型コロナウイルス感染症に係る国、県、賀茂1市5町のこれまでの対応

R3	国	県	賀茂1市5町
4月	4/5 まん延防止措置（大阪他2県） 4/12 まん延防止措置（東京他2県）4/20 まん延防止措置（埼玉他3県） 4/25～5/11 緊急事態宣言（東京他3府県）	令和3年度当初予算 コロナ対策 538億円 ・感染拡大防止とリスクへの備え、「フジノミクス」による経済の拡大、「ふじのくにライフスタイル」の創出 4/16 令和3年度4月補正予算 70億円 ・県内観光促進策の拡充	・みなみいずプレミアム商品券《第2弾》（南伊豆町） ・中川三聖まつり・岩科重文まつり中止（松崎町） ・がんばろう西伊豆町グルメスクラッチ（西伊豆町）
5月	5/7 緊急事態宣言の延長（5/11→5/31） 5/12 緊急事態宣言追加（愛知、福岡） 5/23 緊急事態宣言追加（沖縄） 5/28 緊急事態宣言の延長（5/31→6/20）	5/14 第17回本部員会議 5/14 警戒レベル5に引き上げ 5/20 令和3年度5月補正予算 331億円 ・感染症対策、事業者支援	・黒船祭中止（下田市） ・河津エールプレミアム商品券（河津町） ・岩地温泉大漁まつり・石部の灯り中止（松崎町）
6月	6/21 緊急事態宣言→まん延防止措置（沖縄除く7都道府県）	6/26 警戒レベル4に引き下げ 6/28 ふじのくに安全・安心認証（宿泊施設）制度 6/30 ふじのくに安全・安心認証（飲食店）制度	・河津プレミアム工事券（河津町） ・西伊豆町富士山キャンペーン（宿泊者に地域通貨）（西伊豆町） 6/20 クラスタ発生（松崎町）
7月	7/12 緊急事態宣言追加（東京）8/22まで 7/23～8/8 東京オリンピック	7/12～8/9 7/30 バイ・サイズカ～今こそ！静岡!!元気旅!!再開 7/26 第18回本部員会議 7/29 警戒レベル5に引き上げ	・熱川温泉海上花火大会中止（東伊豆町） ・石部温泉大地曳き網まつり中止（松崎町） ・河津バガテル公園休園（河津町） ・「新・下田モデル（強化・2021夏～）（下田市） ・プレミアム商品券（下田市） ・松崎町プレミアム商品券（松崎町） 7/22 クラスタ発生（下田市） 7/28～8/8 飲食店営業時短要請（下田市） 7/31 クラスタ発生（東伊豆町）
8月	8/2 緊急事態宣言追加（埼玉他3府県） まん延防止措置追加（北海道他4府県） 8/8 まん延防止措置追加（静岡他7県） 8/20 緊急事態宣言追加（静岡他6府県） まん延防止措置追加（宮城他9県） 8/24～9/5 東京パラリンピック 8/27 緊急事態宣言追加（北海道他7県） まん延防止措置追加（高知他3県）	8/6 第19回本部員会議 8/6 警戒レベル6に引き上げ 8/8～8/19 まん延防止措置 8/16 令和3年度6月補正予算 276億円 ・まん延防止等重点措置に伴う飲食店協力金等 8/18 第20回本部員会議 8/20～9/30 緊急事態宣言 8/30 令和3年度8月補正予算 213億円 議決 ・緊急事態宣言に伴う事業者支援、医療体制の強化	・海水浴場一部中止 ・稲取温泉 花火演舞 8/20以降中止（東伊豆町） ・今井浜花火大会中止（河津町） ・夏まつり花火大会中止（松崎町） ・みなみいずプレミアム商品券《第3弾》（南伊豆町） 8/19 クラスタ発生（松崎町） 8/28 クラスタ発生（南伊豆町）
9月	9/30 緊急事態宣言解除	9/10 第21回本部員会議 9/22 令和3年度9月補正予算 158億円 ・緊急事態宣言延長に伴う事業者支援 9/24 警戒レベル5に引き下げ 9/28 第22回本部員会議	・市独自給付金事業 151,000千円（下田市） ・下田市役所にワクチンメーター設置（下田市） ・事業継続支援給付金（松崎町） ・伊豆半島太鼓フェスティバル中止（松崎町） ・町独自地域経済活性化事業（西伊豆町） ・ふじのくに安全・安心認証制度奨励金（西伊豆町） ・バス誘客キャンペーン（西伊豆町） 9/27 クラスタ発生（下田市）
10月		10/1 警戒レベル4に引き下げ 10/15 警戒レベル3に引き下げ 10/15～12/15 GoToEat 再開 10/18～12/27 バイ・サイズオカ再開 10/22 警戒レベル2に引き下げ	
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

注) 市町独自の取組は掲載の都合上、全ての取組ではなく、一部を掲載

新型コロナウイルス感染症対策本部の取組状況報告（10月26日報告）

（静岡県危機管理部危機対策課）

1 ふじのくに安全・安心認証

(1) 認証事業

ア 飲食店

項目	申請件数	認証件数	割合
10/22 現在	14,503	11,334	78.1
10/31 見込み	15,000	12,000	80.0

イ 宿泊施設

項目	申請件数	認証件数	割合
10/22 現在	1,631	1,020	62.5
10/31 見込み	1,700	1,200	70.6

(2) 助成事業

項目	申請件数	認証件数	割合
10/22 現在	2,079	369	17.8

2 要請に対する協力金の支給

(1) まん延防止等重点措置(8/8、8/15、8/18～8/19)に係る要請

項目	申請件数	支払件数	割合
10/22 現在	13,732	812	6.0

※ 上記件数は、飲食店と大規模集客施設それぞれの件数の合計。以下同様。

※ 10/28までに約8,000件を支払予定

(2) 緊急事態措置宣言（第1期8/20～9/12）に係る要請

項目	申請件数	支払件数	割合
10/22 現在	14,848	106	0.7

※ 11月中旬までに約10,000件を支払予定

(3) 緊急事態措置宣言（第2期9/13～9/30）に係る要請

項目	申請件数	支払件数	割合
10/22 現在	12,285	0	0.0

※ 11月下旬までに約10,000件を支払予定

提供日 2021/10/08
 タイトル Go To Eat 食事券利用自粛等の要請の解除
 担当 経済産業部 商工業局経営支援課
 連絡先 団体支援班
 TEL 054-221-2518



Go To Eat キャンペーンの食事券の利用自粛の要請等を解除します

県内の感染状況が、国の「ステージⅡ」相当で落ち着きが見られることから、7月27日から継続していたGo To Eatキャンペーンの販売済み食事券の利用自粛の要請を解除し、10月9日（土）からご利用いただけることとします。

また、事業実施者に対する食事券の追加販売の見合わせの要請についても解除し、10月15日（金）から販売が開始されます。

区分	時期・期間	備考
販売済み食事券の利用期間	10月9日（土）～ 12月15日（水）	
追加食事券の販売期間	10月15日（金）～ 11月14日（日）	販売は赤富士券（商工会議所連合会等）のみ
追加食事券の利用期間	10月15日（金）～ 12月15日（水）	

（食事券の概要）

区分	販売済み食事券	追加食事券
実施事業者	商工会議所連合会等（赤富士券）、 商工会連合会等（青富士券）	商工会議所連合会等 （赤富士券）
プレミアム率	25%	20%
券種構成	販売終了	1セット1,000円券×12枚を 10,000円で販売
販売期間		令和3年10月15日から 令和3年11月14日まで
販売窓口		県内ファミリーマート
利用期限	令和3年12月15日まで	

※追加食事券の詳細は、ふじのくに静岡県Go To Eatキャンペーン（赤富士券）のホームページで御確認ください。

<https://premium-gift.jp/fujinokunigotoeat/>

※飲食店を利用する場合は、少人数・短時間で、なるべく普段一緒にいる人と利用してください。

※飲食店の皆様につきましても、県の「ふじのくに安全・安心認証制度」による認証を積極的に取得し、引き続き感染防止対策に万全を期してください。

【問い合わせ先】

ふじのくに静岡県Go To Eatキャンペーン（赤富士券）

コールセンター 0570-00-5223

静岡県商工会Go To Eatキャンペーン（青富士券）

コールセンター 050-5491-0495

発表日 2021/10/08

タイトル 県民による県内観光促進事業の再開

バイ・シズオカ～今こそ！しずおか!!元気旅!!!～

担当 スポーツ・文化観光部 観光振興課

連絡先 観光振興班 TEL 054-221-3637



別添 3

県民による県内観光促進事業を10月18日から再開します！

県内の感染状況が、国の「ステージⅡ」相当で落ち着きが見られることから、現在停止している県民による県内観光促進事業について、10月18日（月）から事業を再開します。今回は、従来の割引に加え、土石流の被害により打撃を受けている熱海市の観光産業の復興を応援するため、熱海市内宿泊者には、同市内のお土産物店等で利用できる地域クーポンを更に上乗せして、2倍にします。

事業の実施に当たっては、宿泊割引の対象を元気旅登録施設のうち「ふじのくに安全・安心認証（宿泊施設）」を受けている施設（申請済を含）とする他、旅行者と県内受入施設双方に対し、感染防止対策の徹底を呼びかけてまいります。

（県内を旅行する県民の皆様へのお願い）

- 旅行中の感染防止対策の徹底（身体距離の確保、マスクの着用、手洗いなど）
- 少人数（6人を上限）で、平日利用等、混雑する時間や場所を避けた行動を
- 旅行中の御家族等身近な方以外との飲食は回避を

（県内宿泊事業者など観光事業者等への感染防止対策の徹底）

- 県作成の「新型コロナウイルス感染症に関する対応指針」や観光団体が自ら作成した各業界のガイドラインの遵守、感染防止対策の再度の徹底



県公式YouTube
「おしえて！後藤参事」

<事業の概要>

1 県内宿泊施設への宿泊費及び日帰り旅行代金の割引

対象者	静岡県民（少人数（6人を上限）での旅行に限る。）	
事業期間	令和3年10月18日（月）～12月27日（月） ※ 宿泊割引：12月27日泊まで、日帰り旅行割引：12月27日発まで、地域クーポン：令和4年1月1日まで ※ 10月11日（月）から12月27日（月）の間に予約をした旅行が対象	
割引等の内容 ①+③ 又は ②+③	①宿泊割引	県内宿泊施設の宿泊費の1/2以内（1人1泊最大5,000円） ※元気旅参加施設のうち「ふじのくに安全・安心認証（宿泊施設）」を受けている施設が対象（申請済を含）
	②日帰り旅行割引	旅行商品代金の1/2以内（1人最大5,000円）
	③地域クーポン	割引に合わせ付与（1人最大2,000円） 熱海市内宿泊者のみ 上記に加え、熱海市内のみで利用できる地域クーポンを付与（1人最大2,000円）
利用方法 (①又は②)	①県内コンビニで購入した旅行券と地域クーポンを参加事業者への現地支払いの際に利用 ②県内旅行業店舗で宿泊費等割引を受けるとともに、地域クーポンを登録事業者への現地支払いの際に利用	

2 駿河湾フェリーの運賃半額割引

概要	旅客運賃、車両・二輪運賃、周遊運賃を普通運賃から半額割引
事業期間	令和3年10月18日（月）～12月31日（金） ※ 10月1日～17日は、（一社）ふじさん駿河湾フェリーが独自に県民を対象とした割引を実施中。
割引条件	県内宿泊施設への宿泊又は、県内観光施設等への立寄り（2ヶ所以上）

※ 1、2とも新型コロナウイルス感染症等の状況により、事業を停止する場合があります。

問い合わせ先 1 元気旅事務局コールセンター

電話番号 0570-666-867

2 （一社）ふじさん駿河湾フェリー

電話番号 054-353-2229

R4 年 賀茂 1 市 5 町の成人式の実施方針

	実施日	会場 (対象人数)	中止基準	対策
下田市	1月9日	市民文化会館 大ホール (181人)	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・抗原検査キットを1人2セット配布し、帰省前と成人式前に検査を義務付け ・保護者の入場禁止と来賓者を減らす
東伊豆町	1月9日	東伊豆町役場 1階大会議室 (111人)	警戒レベル5以上又は町内でクラスターが発生した場合、町新型コロナウイルス感染症対策本部会議で決定	<ul style="list-style-type: none"> ・熱川、稲取の2地区を午前、午後に分けて開催 ・保護者の入場制限を実施。前年同様WEBにて閲覧可能とする
河津町	1月9日	河津中学校 体育館 (約70人)	<ul style="list-style-type: none"> ・警戒レベル5以上 ・町内クラスター発生(家庭内は除く) 	ワクチン接種済証又はPCR検査陰性証明
南伊豆町	1月9日	役場 湯けむりホール (94人)	緊急事態宣言発令で検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・入場は新成人のみ ・会場内は私語厳禁 ・式典は30分以内
松崎町	1月9日	環境改善センター文化ホール (約61人)	ふじのくに警戒レベル等を基準に判断する。中止はしない。延期する。	ワクチン接種又は陰性証明
西伊豆町	1月9日	中央公民館 (73人)	検討中	検討中

歴史・文化資源を活用した広域連携事業の全体像

1 目的

地域の歴史・文化資源を活用した国内外の観光客に選ばれる観光地域づくり

- ・大河ドラマを契機に、地域が持つ歴史・文化資源に光を当て、地域住民の理解を深めることにより、地域への愛着や誇りを醸成していく。

→住民が、地域の魅力を自ら発信し、国内外から人を呼び込む地域づくりを目指す。

2 進め方

県・市町と連携のもと、「知る・深める」、「守る・つなげる」、「売り込み・誘う」の3つの視点で、地域の歴史・文化資源を磨き上げ、これを活用した事業を展開
(地方創生推進交付金を活用)

3 事業計画 <テーマ> 武士の世の始まりから終わりまでが体感できる地域づくり

R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024) ~
	<p>【鎌倉幕府の成立から終焉】 ・ 貴族の世から武士の世へ</p> <p>【戦国時代～江戸幕府の終焉】 ・ 下克上の世から天下統一 ・ パクストクガワナーの終焉・開国</p>		<p>【歴史文化の継承】 ・ 箱根八里日本遺産登録5周年 (R6) ・ 韮山反射炉世界遺産登録10周年 (R7)</p>
	<p>R4. 1. 9～大河ドラマ (鎌倉殿の13人)</p>	<p>R5. 1～大河ドラマ (どうする家康)</p>	
	<p>R4. 1. 15～R5. 1. 15 (予定) 伊豆の国市大河ドラマ館</p>		

- ・ 2本の大河ドラマを機に、鎌倉時代から江戸時代までの「武士の世」に関連した歴史・文化資源を活用し、広域周遊を促進する事業を全県に拡大

区分	R2	R3	R4	R5
大河ドラマ放映			「鎌倉殿の13人」	「どうする家康」
調査 ・ テーマ別年表作成、 ・ 広報用素材収集 ほか	鎌倉 (東部・伊豆)	鎌倉～江戸初期	江戸中～後期 (県全域)	
資源の磨き上げ、誘客準備 ・ 住民による資源活用への支援 ・ 旅行商品企画の促進 ほか		鎌倉殿 (東部・伊豆) (県全域)	家康 (県全域)	武士の世 (鎌倉～江戸後期) (県全域)
誘客 ・ 旅行キャンペーン ・ web スタンプラリー ほか		鎌倉殿 (東部・伊豆) ⇒ 県全域	家康(県全域)	武士の世 (県全域)

歴史・文化資源を活用した広域連携事業 東部・賀茂地域の取組

(東部地域局)

(要旨)

2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を活用した広域周遊促進に向け、県と東部・伊豆地域の20市町、観光・商工関係団体等で「大河ドラマ『鎌倉殿の13人』ゆかりの地 伊豆・富士山周遊促進連絡協議会」(以下、「協議会」という。)を設立した。

協議会では、地方創生推進交付金を得て県が実施する歴史・文化資源を活用した広域連携事業予算を有効に活用し、県と共催で誘客、広域周遊促進事業等を展開していく。

(令和3年度事業内容)

協議会では、広域連携事業のうち「売り込み・誘う」事業を中心に誘客、広域周遊の促進に取り組む。

区分	事業	主な内容	県担当
知る・深める	歴史的観光資源調査	・2023年大河ドラマ「どうする家康」を先取りした全県、武士の世(室町～幕末)を対象とした調査	観光交流局
	文化財の魅力発信	・ウェブサイト「しずおか文化財ナビ」の運営 ・「ふじのくに文化財オータムフェア」の開催	文化局
	歴史文化の紹介	・歴史と史跡等を組み合わせた動画の制作・発信	東部地域局
守る・つなげる	文化財の保存・継承	・地域の文化財保存・活用団体の認定・表彰 ・市町の文化財保存活用地域計画の作成促進 ・指定文化財の修理・整備	文化局
売り込み・誘う	誘客宣伝・広域周遊	・特設ウェブサイトの構築・運営 ・広域周遊に向けた情報発信拠点の整備・運営(伊豆の国市大河ドラマ館周辺に設置を想定) ・広域周遊ガイドマップの制作 ・ウェブスタンプラリーの実施 ・神奈川県と連携した広域周遊促進 ・民間団体等による旅行商品の企画・売り込み	東部地域局
	機運醸成	・共通ロゴの制作 ・NHK関連媒体を活用した地域紹介	
	消費喚起	・地域内の歴史や文化等の地域の魅力をテーマとした土産品等の消費喚起事業の実施	

基本理念

誰にも優しく、誰もが便利に、安全・安心、そして豊かに

目指す姿

そして豊かに

デジタル技術が支える“新しい静岡時代”

～移動、時間、所有、言語の制約から解放された共創社会の実現～

＜暮らす・楽しむ＞

日々のデータが、個人の日常生活に活用される社会

＜学ぶ・究める＞

知能と技術がシェアされ、場所と時間を選ばない学びの場

＜働く・磨く＞

バーチャルとリアルとの融合が生み出す新しい働き方

＜つながる・支え合う＞

言葉や障害の壁を越えた新しいコミュニティの創造

施策の展開

政策の柱1 デジタル化推進のためのデバインド対策の実施

政策の柱2 社会のスマート化に向けた環境整備

政策の柱3 デジタル技術の実装への支援

政策の柱4 ウィズコロナ時代の新しい生活様式への対応

政策の柱5 データの分析・利活用の推進

施策を支える基盤の強化

基本方針

地域社会におけるデジタル化の牽引

市町DXの推進への支援

県庁DXの推進と新たな価値の創造

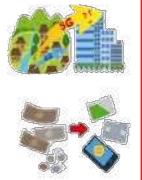
重点取組

I 誰にも優しく



- デジタル機器の取扱いが不得意な方への支援
- 市町基幹業務システムの標準化・共通化への支援

II 誰もが便利に



- ふじのくにのデジタル化事業の拡充
- 県有施設のデジタル化（web・キャッシュレス）
- オープンデータの利活用の促進

III 安全・安心

～施策を支える基盤～

- 情報セキュリティの強化
- デジタル人材の育成・強化



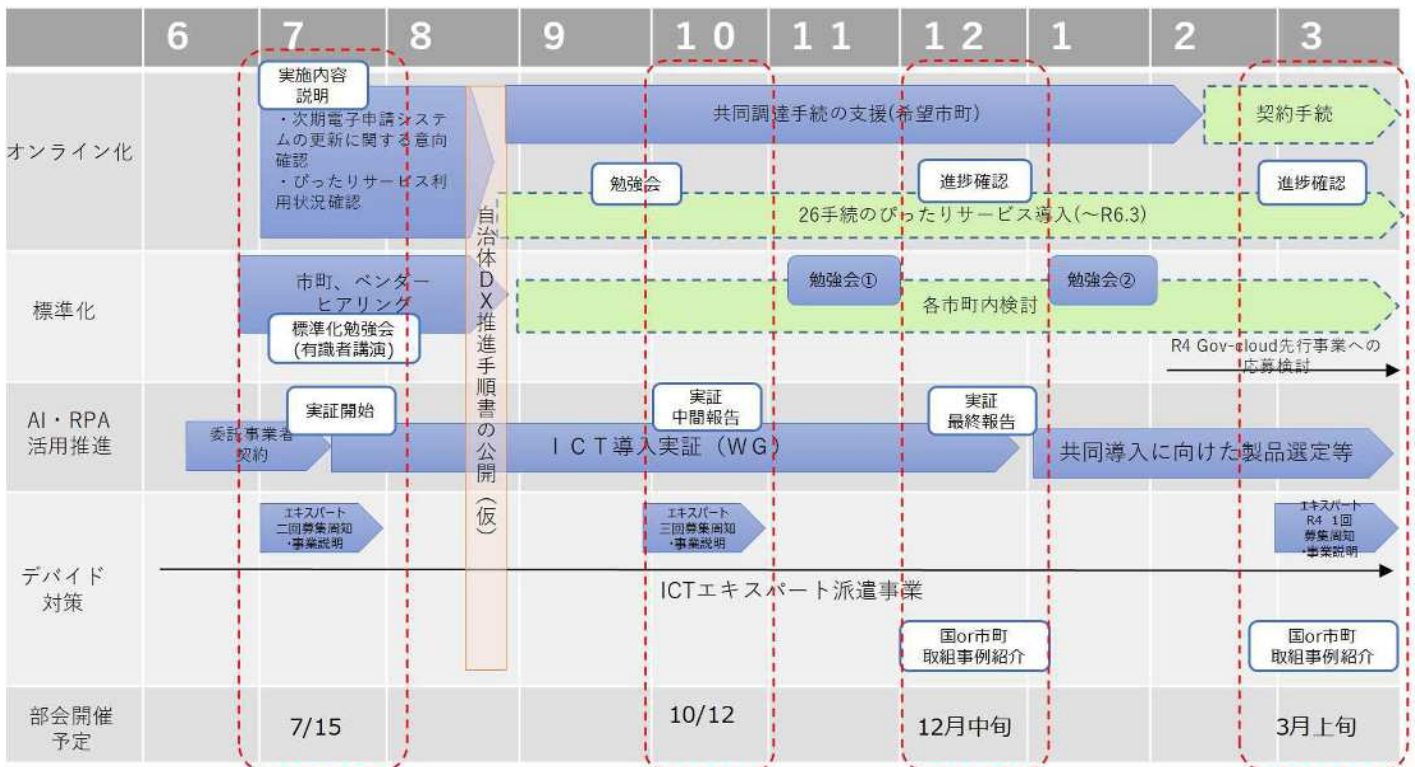
市町DXの推進への支援

	支援内容	目標
共通課題 に対する 取組	行政手続のオンライン化 ・市町の汎用電子申請システムの更新支援 ・共同調達希望の市町に対する技術的支援 ・ぴったりサービスの活用促進	・汎用電子申請システムの更新（～R4.3） ・26手続のぴったりサービスを用いたオンライン化を実施（～R5.3）
	情報システムの標準化・共通化 ・市町の対応予定調査 ・各ベンダーに標準化対応方針をヒアリング ・市町を導入ベンダーごとに分け、勉強会開催	・業務フロー等の整理（～R5.3） ・主要17業務のシステムを標準システムへ移行（～R8.3）
広域的な 取組	AI・RPA導入推進 ・市町におけるICT導入実証事業の実施（音声認識技術、AI-OCR） ・R4年度の共同調達に向けた検討	・R4年度に複数市町でのICT共同導入を実現
	リテラシー向上、デバインド対策 ・ICTエキスパート活用事例の紹介 ・先進事例の情報提供、市町への横展開 ・国のデジタル活用支援推進事業の周知	・ICTエキスパート派遣回数増加 ・市町や民間事業者の取組促進

自治体DX推進手順書 全体工程表

取組事項		2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	【参考】 目標時期	
BPRの取組みの徹底		大まかな取組内容						
目標時期等が設定されている取組み	自治体の情報システムの標準化・共通化	大まかな取組内容						
	【参考】ガバメントクラウド	先行事業（一部稼働） → 「ガバメントクラウド」の提供						令和7年度
	【参考】標準化	仕様策定・仕様の調整（データ要件・連携要件等、17業務の機能要件） → 標準標準システム開発（「ガバメントクラウド」上でのサービス提供前提）【事業者】						
	マイナンバーカードの普及促進	大まかな取組内容						令和4年度末
	自治体の行政手続のオンライン化	大まかな取組内容						令和4年度末 ※1
【参考】標準仕様	エンドToEndのオンライン接続に係る標準仕様の提供							
セキュリティ対策の徹底		大まかな取組内容						令和4年度末 ※2
その他の取組み	自治体のAI・RPAの利用推進	大まかな取組内容						-
	テレワークの推進							-
	地域社会のデジタル化							-
	...							-

令和3年度における市町支援のスケジュール



市町の基幹（20）業務システム



標準化・共通化に向けた課題

[課題]

- ・ 今回の標準化・共通化ではカスタマイズが認められない
⇒ システムに合わせた業務フローの見直し等が必要
- ・ 現行システムからの移行作業（委託ベンダーによるところ大）
⇒ 全国一斉の作業でベンダーは大規模自治体を優先の可能性
県内 SBS15、TKC8、NEC4、富士通3、日立2、行政1
業務ごと異なるベンダーと契約している自治体は大変
- ・ 庁内での推進体制の構築が必要
⇒ 情報政策担当課とシステム利用課の密な連携が必要

標準化・共通化に向けた課題の具体例

固定資産税課税システムの標準化・共通化に関する課題

1 実務手順の不統一

土地家屋の減価補正率、課税標準額1円未満処理、路線価の有効桁数

2 データ構造の不統一

地番表記の相違（〇〇番地⇔〇〇一）、地目の管理方法の相違

3 評価機材の不統一

別構成の家屋図形評価システム等により算出の評価額を取り込む



実務手順、データ構造、評価機材の統一が必要
標準化前後の乖離、継続性の検証を職員で実施

教育委員会の共同設置専門部会

(県教育委員会)

(要 旨)

第30回の専門部会を開催し、「未来を切り拓くDream授業・賀茂版」等について協議を行った。なお、今回は新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、書面にて開催した。

1 会議の概要

(日時) 令和3年9月17日(意見提出依頼)～10月8日(取りまとめ結果共有)
 (議事) 「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」「しずおか寺子屋 in 賀茂キャンパス」
 延期後の対応について/その他情報共有

2 協議内容

(1) 「未来を切り拓くDream授業・賀茂版」

8月19日(木)、20日(金)に賀茂キャンパスで開催予定であったが、延期
 →延期後の対応について、別紙のとおり決定

- ・日時：11月20日(土)、賀茂キャンパス
- ・翌日(11/21)に静岡県立大学と下田高校、松崎高校、稲取高校が参加するサマースクール(フィールドワーク)を計画中

(2) 「しずおか寺子屋 in 賀茂キャンパス」

8月3日(火)、4日(水)に賀茂キャンパスで開催予定であったが、取りやめ
 →その後の対応について、以下のとおり決定

- ・年度内(冬休みなど)での再実施は学校や児童生徒の日程確保が困難
- ・来年度(夏休みなど)に開催を延期

3 情報共有

(1) 大学との連携

- ・令和3年度 賀茂キャンパス関連事業(10月現在。資料1)
- ・若旅IN賀茂キャン(10/30開催。資料2)

4 今後のスケジュール(予定)

時 期	予 定	内 容
2月頃	第31回専門部会	・Dream授業振り返り、翌年度の方針(寺子屋含む) ・学校統合に係る検討 など

「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」実施概要（案）

（賀茂地域広域連携会議 教育委員会の共同設置専門部会
（賀茂1市5町及び県教育委員会））

1 目的

「賀茂は一つ」の想いのもと、ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域の発展に貢献できる「賀茂の子」を育むため、賀茂地域に想いを寄せ力を尽くしている講師陣の講義を通じて、日常生活では目に触れることがない地域の実情や、講師の人間性等に触れるとともに、お互いに刺激し合える仲間を地域内につくることで、自分の生まれ育った地域が大好きな子供たち、「地域のためになりたい」という思いを持つ子供たちを育成する。

2 概要

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、開催を11月に延期

項目	内容
日程	・（当初）8月19日（木）、20日（金） → （変更後）11月20日（土） *新型コロナウイルス感染症拡大状況によって、リモート等への切替の可能性あり
場所	・賀茂キャンパス（県下田総合庁舎内 下田市中531-1）
対象	・賀茂1市5町の中学1～2年生（28名） ・令和2年度参加予定の3年生で希望する者は参加可（7名）*計35名 → <u>8月参加予定だった上記生徒に再度確認（追加参加も可とする）</u> ・大学生（静岡県立大学）が学生サポーターとして参加 （11/21大・高校生（下田高・稲取高・松崎高）対象のフィールドワーク実施）

3 時間割（調整中）

内容	時間	講師 *敬称略
オリエンテーション	9:10～9:20	
1時間目	9:20～10:20	土屋優行（静岡県特別補佐官）
2時間目	10:30～11:30	芹沢安久（カネサ鯉節商店）
昼休み	11:30～12:30	
3時間目	12:30～13:30	酒井厚志（白浜マリーナ代表取締役社長、日本サーフィン連盟理事長）
4時間目	13:40～14:40	高瀬真由（地域おこし協力隊）
5時間目	14:50～16:20	八木健祥（静岡県立大学ツーリズム研究センター長） ・大学生も交えた討議等
連絡事項	16:20～16:30	

令和3年度 賀茂キャンパス関連事業

項目	主たる関係団体	月日	場所	内容
観光人材育成のための社会人講座	静岡県立大学	原則毎月第3金曜日 (8月は実施なし、9月は延期)	賀茂キャンパス	大学が不在の賀茂地域の住民の学びの場の創出及び主産業である観光業に携わるの方の新たな気づきやスキルアップにつながることを目的に開催。
高校生のための観光講座	静岡県立大学、下田高校	6/12(土)、7/10(土)、10/9(土)、11/13(土)	下田高校	高校生向けの出前講座を下田高校の生徒を対象に土曜日に開催。 テーマは観光に関すること。
7/26コロナ感染拡大のため中止(今後の開催については未定)→9/6 冬に開催検討したが、今年度は中止の方向 しずおか寺子屋が賀茂キャンパス	県教育政策課、県社会教育課、各市町教育委員会、本県高校、静岡大学、常葉大学	8/3(水)→8/4(木)	賀茂キャンパス	地域の小学生相手に教員志望の高校生、大学生、校長OBが勉強会をする。 各市町教育委員会から高校生や大学生に授業のようなものを行う予定。 8/4は東伊豆町と松崎町が個別に寺子屋を実施する。希望者がいればそちらに行くことも可能。
博物館学芸員養成課程 「博物館実習」	静岡文化芸術大学	8/9(月)～8/13(金)	上原美術館	静岡文化芸術大学の大学生8名が上原美術館の実習プログラムに参加。
7/30新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため11月頃に延期する →ドリーム授業の前後に開催するか検討中 アカザミツカサマースクール	県教育政策課、静岡県立大学、管内高校	8/19(木)～10/11(月) 授業 賀茂版と同日時期で検討	賀茂キャンパス	未来を切り拓くDream授業 賀茂版のサポーターとして来る大学生と地元の高校生の交流の機会を設けることともに、地元の高校生に大学の授業を体験してもらうことで、進路形成意識の醸成することを目的に開催。 伊豆地域に関する講義を行った後、大学生と地元の高校生が一緒にグループワーク・賀茂地域のウェブサイトでのフィールドワーク・報告会を行う。
7/30新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため11月頃に延期する →9/6時点では11/13(土)or20(土)のどちらから1日で開催することで調整 未来を切り拓くDream授業 賀茂版	県教育政策課、静岡県立大学、管内高校	8/19(木)～8/20(金) 11/13(土)or11/20(土)	賀茂キャンパス	管内中学生を対象に賀茂地域に想いを寄せ、力を尽くして活躍している大人が講師として授業を行い、日常では目に触れることがない地域の実情や講師の人間性等に触れるとともに、仲間を地域内に作ることで、自分の生まれ育った地域が大好きな子どもたちの育成を目指す。
8/8 賀茂ラボメンバー会議で8月末まで蔓延防止が出たことを考慮し、日程を再調整することを決定。→8/10 下田高校稲葉先生へ連絡済→8/26事業の中止を決定、これまでの取組のまとめを作成依頼 高校生交流モデル事業(賀茂ラボ)	賀茂ラボPT、下田高校	8/7(金) 10/9日(土)	下田高校	賀茂地域キャリアラボ(有志の大学生)が下田高校生との交流事業を企画。 9月3日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止を決定。 10月9日(静岡県立大学の高校生のための観光講座と同日)に規模を縮小して実施予定。
若旅IN賀茂キャン	若旅PT、静岡県立大学、静岡文化芸術大学	10/30日(土)(オンライン) 令和4年2～3月(現地)	賀茂地域、オンライン	賀茂地域の魅力を大学生に発信することを目的とした、大学生主体で企画立案を行う伊豆観光学生ツアーを開催する。 今年度はまず費用があまりかからずに気軽に参加できるオンラインツアーを開催し、賀茂地域に興味関心をもちた学生向けに実際に賀茂地域に来る体験や交流をするリアルツアーを開催する2段階で開催予定。 10/30(土)にオンラインツアーを開催する。令和4年2～3月にリアルツアーを予定。
オープンキャンパス	静岡県立大学、稲取高校	11/16(火)	県立大学	稲取高校の生徒が県立大学を訪問し、オープンキャンパスのようなことを行う予定。
漫画「賀茂の観光資源」	静岡県立大学、静岡文化芸術大学	12月までに完成予定	—	賀茂地域を紹介する冊子を漫画で作成する。 県大がコンテンツ作成、文芸大がイラスト作成。
賀茂地域観光景気調査	静岡県立大学、管内商工会議所・商工会・観光協会	毎月	—	賀茂地域の商工会や観光協会へ賀茂地域における新型コロナウイルスの影響及び今後の業況アンケートに関するアンケート調査を毎月実施。 賀茂地域1市5町の商工会議所・商工会と観光協会(対象12団体)。 調査結果を各団体へフィードバックし、状況が刻々と変化している中、賀茂地域の状況把握・認識共有として実施している。
出前講座	静岡県立大学、稲取高校	調整中	稲取高校	県立大学の先生が稲取高校で出前講座を開催する。 5月に開催予定であったがコロナで延期。
フォーラムの開催	静岡大学	—	賀茂キャンパス	能登半島のフォーラムが出来ればとのこと構想。 具体的な内容については検討段階。

若旅 IN 賀茂キャン（大学生ツアー）

（若旅プロジェクト・賀茂地域局）

1 要旨

若旅 IN 賀茂キャンは、賀茂地域の魅力を大学生に発信することを目的とした、大学生主体で企画立案を行う伊豆観光ツアーである。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインツアーを実施した。今年度は、オンラインツアー及びリアルツアーの2段階構成での実施とし、第1弾のオンラインツアーを令和3年10月30日に開催する。

2 オンラインツアー

（1）概要

日時	令和3年10月30日（土）15:00～17:00
対象	大学生（県内外問わず）
費用	700円（お土産代として（お菓子、お茶漬けの素、ポストカード等を事前送付））
募集期間	令和3年9月21日（火）～令和3年10月15日（金）

（2）コンテンツ内容

①賀茂ていびてい～「賀茂」×「アクティビティ」～（静大青木さん、県大田口さん担当）

- ・東伊豆町の細野高原で人気のパラグライダーの体験動画を活用し、細野高原の景色やアクティビティをPRするとともに、ジオサイトとしての魅力を紹介する。
- ・海沿いを中心としたサイクリング映像を流しながら、景色や地形について解説する。


②賀茂に夢を宿して（文芸大風岡さん、坂東さん、県大原口さん担当）

- ・地域に深く関わりのある宿泊施設について、賀茂地域ならではの宿泊施設の運営上の工夫・PRポイントについて、インタビューを通じて紹介。
- ・異なる運営形態（ホテルと民宿）の施設を比較しながら紹介する。

③賀茂を食べ尽くす（静大北嶋さん、菊地さん担当）

- ・ジオサイトである堂ヶ島の近隣にある堂ヶ島食堂から、西伊豆の特産品である鰹節や鰹の加工品を生中継で紹介。
- ・地元松崎町にあるおすすめのカフェのほか、賀茂地域の魅力的なカフェを紹介

3 スケジュール

日時	内容	備考
R3.6.10	キックオフミーティング	Zoom ミーティング
オンラインツアー開催まで随時	オンラインミーティング・事前視察・関係団体との調整	Zoom ミーティング（週に1回） <ミーティングの様子>
R3.9.21～10.15	参加者募集	
R3.10.30	オンラインツアー開催	
R3.11	オンラインツアー反省会 （プロジェクトメンバー追加募集）	
リアルツアー開催まで随時	オンラインミーティング・事前視察・現地調整・関係団体との調整	Zoom ミーティング
R4.1	参加者募集	
R4.2	リアルツアー開催	

4 検討体制等

(1) 目的・方向性

- ・協定3大学の学生を対象に、賀茂地域を知るきっかけづくりを目的とした、気軽に参加できるオンラインツアーを先に開催する。
- ・オンラインツアーの参加者等を対象に実際に現地を案内するリアルツアーを開催し、魅力を体感することで賀茂地域への学びを深めてもらう。

(2) プロジェクトメンバー

- ・協定3大学の学生によりプロジェクトチームを結成し、企画・立案を行う。

大学	氏名	学年等
静岡大学	菊地 凜	教育学部3年(松崎町出身)
	北嶋 泰成	地域創造学環3年(三島市出身)
	青木 奏磨	地域創造学環2年(藤枝市出身)
静岡県立大学	三村 あゆみ	経営情報学部2年(磐田市出身)
	田口 心湖	経営情報学部1年(静岡市出身)
	原口 瑠菜	経営情報学部1年(静岡市出身)
静岡文化芸術大学	◎風岡 ひなた	文化政策学部2年(栃木県出身)
	坂東 夏穂	文化政策学部2年(福井県出身)

◎：プロジェクトリーダー

- ※若旅 IN 賀茂キャンププロジェクトメンバーが作成したロゴマーク
(左) プロジェクトチームのグループLINEのアイコンとして使用
(右) オンラインツアー当日のバーチャル背景として使用予定
(両方) PCへ貼るステッカーとして配付予定。



(静岡文化芸術大学2年 風岡ひなたさん作) (静岡県立大学1年 田口心湖さん作)

(参考) ”オンラインツアー”とは・・・

- ・ネット環境があればいつでもどこでも楽しむことができる「疑似旅行」であり、オンライン上の案内人により、家にいながら現地のこと(地域の自然・歴史・町並み等の魅力)を見て学ぶことができる。
- ・YouTubeや動画サイトとは異なり、実際に現地の方と交流し、双方向のコミュニケーション・体験が可能である点がオンラインツアーの魅力である。
- ・体験として、地域の当事者からの直接的な学び、地場産品・ご当地グルメを満喫(調理・飲食)、生産者との交流(時間の共有)、アクティビティの疑似体験を通じて、次の機会には実際にその地に足を運び、リアルな体験をしたいという気持ちにつなげる。
- ・Webコミュニケーションツール(ZoomやSkype)を活用し、ツアー時間は30分～3時間程度が一般的である。

若

2021

10.30(SAT)

15:00-17:00

旅

IN賀茂

募集期間

2021年9月21日(火)~10月15日(金)

キャン

大学生限定オンラインツアー:ZOOM開催!

若旅プロジェクトでは静岡県内3大学(静岡大学・静岡国立大学・静岡文化芸術大学)が連携し、賀茂地域の魅力を発信するオンラインツアーを企画しました。一昨年から実施されているツアーですが、今回は、賀茂地域の「食」「景色」「宿泊施設」に焦点をあて、賀茂の知られざる魅力を紹介しつづけます。また、賀茂の雰囲気を感じていただくために、事前にお土産を送付します!ツアーと一緒に楽しみください。今、賀茂ってどこ?何があるの?と思っているあなた!ツアーが終わる頃には、賀茂旅行計画を立て始めるのではないのでしょうか。

参加費700円

【以下の品物を事前にご送付します】

お菓子・お茶漬けの素・ポストカード他
PayPay or 現金支払い

コンテンツ内容



賀茂
ていびてい

東伊豆の美しい景色を思う存分楽しめるアクティビティ「サイクリング」「パラグライダー」をご案内します。現地の人ぞ知る伊豆の穴場、賀茂ならではの風情と景色をお楽しみください!



賀茂
に夢を宿して

旅行の一服先として重要な役割を果たす宿泊施設。今回は賀茂地域にある宿泊施設の中でも、自由なワークスタイルが特徴的な「下田大和館」と、Uターンで下田に戻ってきたご夫婦が営むリノベーション民宿「勝五郎」を紹介します。



賀茂
を食べ尽くす

様々な自然の姿を織りなす賀茂は食文化も豊富です。豊かな自然から生まれた食材や個性豊かなお店などを学生チョイスで紹介いたします。伝統やベンチャーが入り交じる西伊豆の食産業、賀茂地域に点在する魅力的なお店をお楽しみください。

<申し込み方法>

大学名・学部学科・学年・氏名・お土産送付先住所・電話番号をご記入の上、大学のメールアドレスで右の預告までご連絡ください。

応募
宛先

静岡大学 北嶋泰成 kitajima.taisei.19@shizuoka.ac.jp
静岡国立大学 原口唯菜 b21094@u-shizuoka-ken.ac.jp
静岡文化芸術大学 風岡ひなた g2011033@suac.ac.jp

【主催】若旅プロジェクト・静岡県賀茂地域局

【協力】賀茂キャンパス活用推進委員会・伊豆フライトハウス・勝五郎・株式会社下田大和館・カネサ軽筋商店・漁師カフェ堂ヶ島食堂・有限会社三角屋水産 Costa Forno・邪宗門・キッチンZEN

※応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。※マスコミ取材等により、オンラインツアー中の動画や写真を使用する場合があります。

静岡県ごみ処理の広域化及び処理施設の集約化の推進

(環境局廃棄物リサイクル課)

1 要 旨

人口減少の進展による、一般廃棄物排出量の減少、処理施設（能力）の余剰の増加等に対応するため、環境省の方針を踏まえながら、市町との連携のもと、県が「静岡県ごみ処理広域化・ごみ処理施設集約化計画」（以下「広域化計画」という。）を策定し、ごみ処理の広域化及び処理施設の集約化を推進する。

2 概 要

(1) ごみ処理広域化の検討の必要性及び本県の取組

人口減少に伴い、ごみ排出量の減少が見込まれることから、処理施設の新設や更新に当たって近隣市町との共同処理を検討し、支援していく必要がある。

平成31年3月に、環境省から各都道府県に令和3年度末までに広域化計画を策定するよう通知されたことを受け、本県では、広域化計画の策定に向け、市町との検討会を開催し合意形成を図りながら、調査・検討を進めている。

(2) 環境省の方針

- ・計画期間は原則10年（20～30年後の人口及びごみ排出量を予測、考慮すること）
- ・環境省通知では、発電等のエネルギー利活用の観点から、焼却施設は、まずは100 t/日以上を目指し、100～300 t/日未満の施設についても300t/日以上を集約化を検討することを明示
- ・焼却施設を新設する際に活用する循環型社会形成推進交付金の交付要件に、ごみ処理の広域化・施設の集約化の検討を追加

(3) 広域化計画の概要

区 分	内 容
期 間	令和4～13年度（10年間）
目 的	共同での広域処理や施設集約による持続可能な処理体制の構築
圏 域	4ブロック（賀茂、東部、中部、西部）

(4) これまでの取組状況及び今後の予定

時期	内 容	
令和2年度	排出量の将来予測や広域化シミュレーション、市町検討会による素案策定	
令和3年度	4～8月	素案の再調整・検討会の実施（県内4圏域）
	10～11月	検討会の際に出た意見を反映させた最終素案の確認（県内4圏域）
	12月～3月	パブリックコメントの実施・計画策定

(参考) 県全体のごみの排出量の将来推計

賀茂地域では、令和13年度は30%減、令和34年度は65%減と見込まれる。（県試算）

	基準年	ごみの排出量推計値（単位：千t）				
		計画期間終期	長期的な展望	減少率（2018年比）		
				2031年（R13）	2052年（R34）	2031年（R13）
	2018年（H30）					
県全体	1,206	1,064	848	▲12%	▲30%	
賀茂地域	32	22	11	▲30%	▲65%	
東部地域	387	329	244	▲15%	▲37%	
中部地域	388	337	265	▲13%	▲32%	
西部地域	399	376	328	▲6%	▲18%	

南伊豆地域におけるごみの広域処理の動き

(環境局廃棄物リサイクル課)

1 概要

ごみ処理施設の老朽化に伴い、下田市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の1市3町において、ごみ処理の広域化・施設の集約化の検討を行っており、令和2年度末に、各市町の首長とも共同整備への参加を表明した。

また、その後の協議により、ストーカ式の焼却方式を採用すること及び一部事務組合を設立することについて合意した。

令和3年9月に広域処理に向けた基本構想を策定し、今後、市議会等において説明を行う予定である。

2 現在の協議・検討状況

区分	内容
処理方式	焼却方式（ストーカ式）
規模	調整中（基本構想における施設規模：58t/日）
設置場所	現下田市ごみ処理施設敷地内で調整中
事務主体	一部事務組合
設置・運営主体	公設民営方式で検討中

3 今後の整備等のスケジュール（予定）

期間	事業内容
令和3年	国庫の循環型社会形成推進交付金に係る地域計画の承認申請（令和3年12月頃）
令和4年～5年	焼却施設・マテリアルリサイクル推進施設 調査・設計
令和6年～9年	焼却施設 本体整備
令和6年～11年	マテリアルリサイクル推進施設 本体整備

4 県が策定する静岡県ごみ処理広域化計画との関連

- 20～30年後の人口減少の進展等を踏まえ、一般廃棄物の処理主体である市町と連携し、令和3年度中に県全体のごみ処理広域化計画を策定する。（環境省は全都道府県に令和3年度末までに計画を策定するよう通知）
- 今回の南伊豆地域の広域処理の動きを反映した内容で策定を進めている。
- 県による推計結果では、賀茂地域のごみの排出量は、平成30年度の実績と比較すると、計画期間終期（令和13年度は30%減）、長期的な展望（令和34年度）は65%減となる。
- 長期的な展望では、東伊豆町及び河津町（東河環境センター）も含めた広域処理とする内容とし、各市町と共有している。

5 現行の焼却施設の解体事業費について

- 解体事業費に係る循環型社会形成推進交付金の活用について、解体の時期及び跡地利用の有無等が決定していないため、今後、対象施設等を市町間で協議する必要有り。

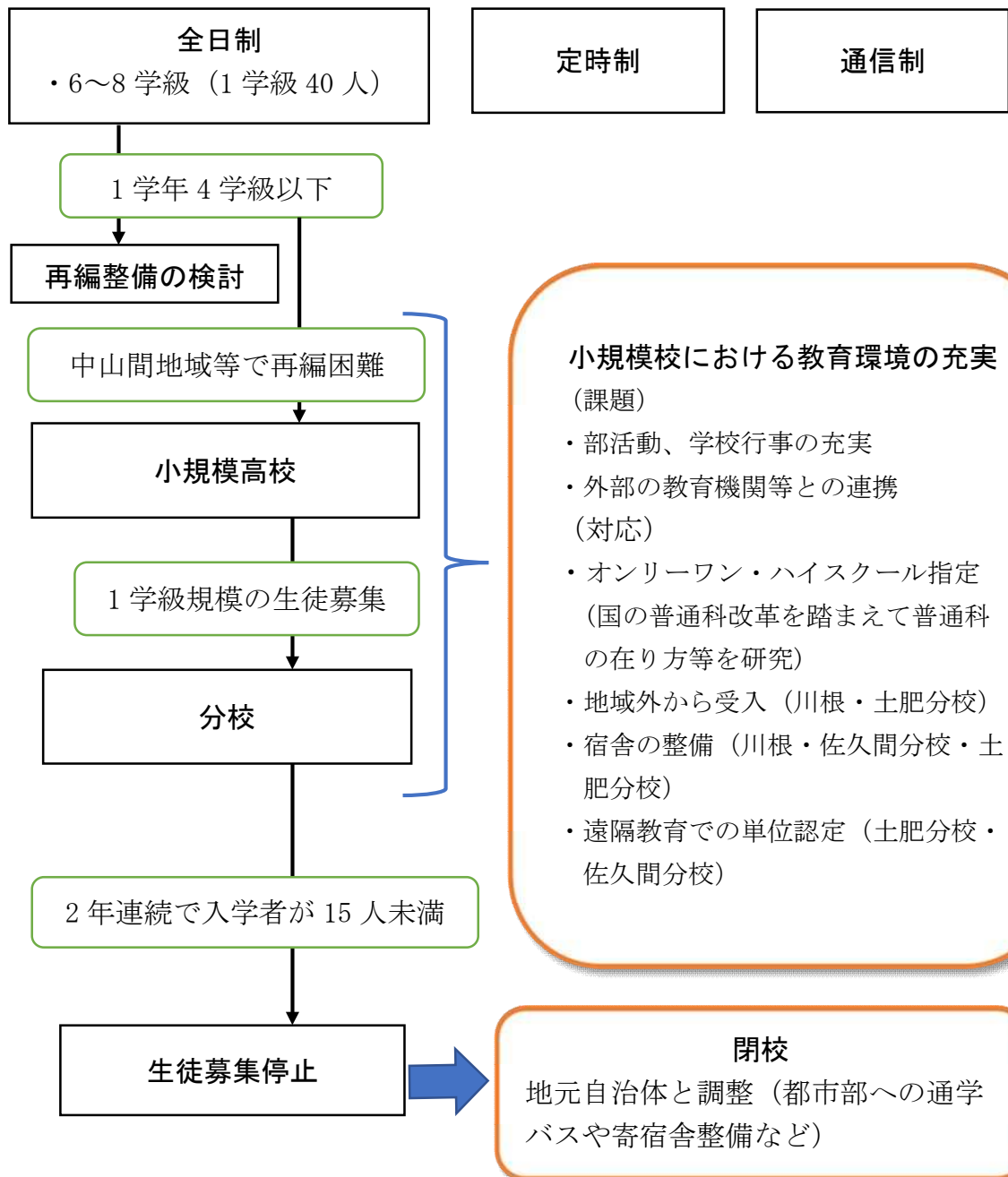
6 県の対応

- 今後も、賀茂健康福祉センターを通じて情報収集を続けるとともに、必要に応じて助言や参考となる情報提供等を行う。

少子化社会における教育の維持（中山間地域等の小規模高校と魅力化）

（高校教育課）

県立高等学校の全日制過程の規模については、おおむね1学年6～8学級が適正であると考えます。中山間地域等の小規模校については、近隣の学校との再編整備による教育環境の改善・充実が困難な場合、教育を受ける機会を保障する観点等を踏まえ、小規模校（1学級規模の生徒募集になった場合は分校等）として、教育環境の充実に努めるものとしています。

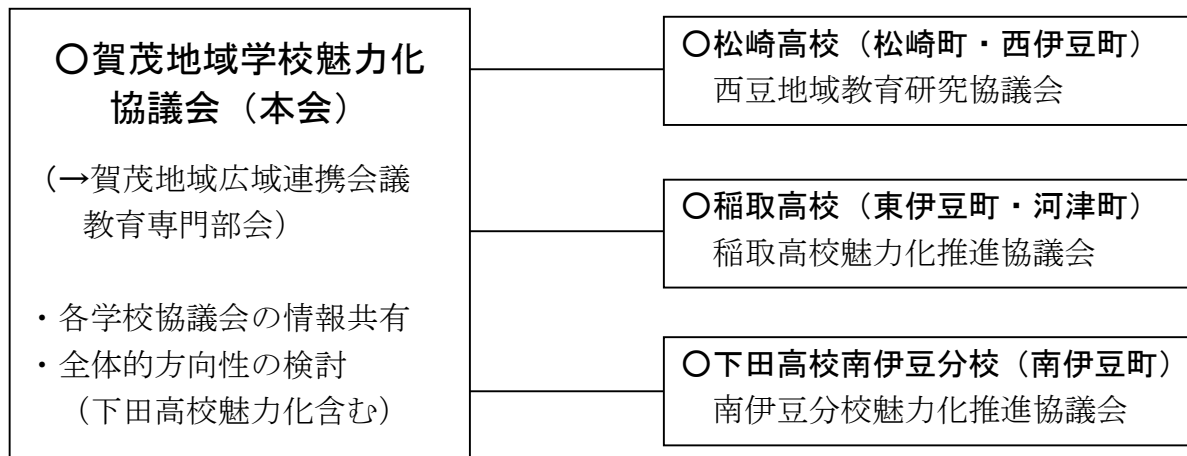


賀茂地域学校魅力化協議会

(賀茂地域広域連携会議 教育委員会の共同設置専門部会
(賀茂1市5町及び県教育委員会))

1 概要

- ・賀茂地域の高等学校の魅力化を図るため、平成31年2月に立ち上げ
- ・本会を賀茂地域広域連携会議教育専門部会が兼ね、各地域でそれぞれの協議会を設置（既存の組織含む）
- ・各地域の協議会には、学校、行政、教育委員会、地域住民、商工会等が参加



2 取組

新型コロナウイルス感染症拡大により、各地域の協議会が開催困難な状況となっているが、地域と高校、学校間の連携は様々な形で行われている。

○西豆地域教育研究協議会

【構成員】 行政、議会、教育委員会、小中高校

【取組】 (R3.5.19 協議会で報告)

- ・松崎高校教員が松崎中学、西伊豆中学で授業実施
- ・松崎中学教員が松崎高校で授業実施
- ・中学・高校の公開授業
- ・高校教員の中学校一日体験研修
- ・部活動交流（ソフトテニス研修大会、スポーツ教室等）
- ・交流事業
合同挨拶運動、合同美術教室、合同美術鑑賞教室
キッズイングリッシュ、ジオパーク学習会、「西豆学」合同発表会
合同進路ガイダンス、合同美術・書道展
- ・新任教員研修（町内めぐり）、松崎高校一日体験入学
- ・幼保小中高 PTA 指導者研修会

○稲取高校魅力化推進協議会

【構成員】 行政、教育委員会、小中高校、区長会、商工会、観光協会等

【取組】

<R2協議会（11/5開催）での報告事項>

- ・東伊豆町・河津町へ町所有のバス利用が実現し、部活動遠征に利用
- ・東伊豆町で学校だよりの回覧板配布や、町のホームページに稲取高校のバナーが掲載され、情報発信力が強化
- ・東伊豆町・河津町所有施設利用時の減免措置（体育センター、河津バガテル公園等）
- ・長期的取組についての意見交換
専門学科の設置
町と連携した給食提供
地域連携活動、専門学校や大学とのつながりの強化 など

<R3>

- ・協議会は調整中
- ・東伊豆町役場・教育委員会、商工会と高校が連携し「地域創生・活性化事業」（1年生対象。地元の経済・企業の状況を知る）を立ち上げ予定（12月）

○南伊豆分校魅力化推進協議会

【構成員】 行政、教育委員会、小中高校、PTA、区長会、商工会、観光協会、JA 等

【取組】

<H30～R1>

- ・下田高等学校南伊豆分校学校農業クラブ活動支援事業（令和元年より）
農業クラブ活動（生徒大会参加移動費（バス借上げ料）等支援
- ・町民に対する生徒活動発表会
（令和元年度実施、翌年よりコロナ対策で地元ケーブルテレビにて放映）

<R2～R3>（R3は10月26日開催）

- ・南伊豆分校グランドデザインについての意見交換
- ・町（商工観光課、企画課地方創生室）と連携したキャリア教育
3年生 町キャリアカウンセラーの活用（講演及び模擬面接）
2年生 インターンシップでの企業とのマッチング支援、
インターンシップ受け入れ先とのキャリアカフェの実施
- ・「総合的な探究の時間」等への協力
- ・町内小中学校との連携
教職員の合同研修会（生徒指導）、PTAの合同研修会（学力向上）、
はごろも夢講演への中学2年生の参加、南伊豆中学校との相互授業公開 等

賀茂地域の高等学校の現状

(教育委員会 高校教育課)

1 当該地域の高等学校の充足状況

高校/年度	当該地区高校 入学者の状況	24	25	26	27	28	29	30	31	R2	R3
下田高校	募集定員	240	240	240	240	240	240	240	240	200	200
	入学者数	242	238	241	236	237	224	224	200	181	187
	定員との差	2	▲ 2	1	▲ 4	▲ 3	▲ 16	▲ 16	▲ 40	▲ 19	▲ 13
南伊豆分校	募集定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	31	35	40	40	40	23	36	18	19	22
	定員との差	▲ 9	▲ 5	0	0	0	▲ 17	▲ 4	▲ 22	▲ 21	▲ 18
稲取高校	募集定員	120	120	120	120	120	120	80	80	80	80
	入学者数	101	120	105	108	109	107	76	75	83	58
	定員との差	▲ 19	0	▲ 15	▲ 12	▲ 11	▲ 13	▲ 4	▲ 5	3	▲ 22
松崎高校	募集定員	120	120	120	120	120	120	120	80	80	80
	入学者数	107	102	106	95	99	101	84	70	76	73
	定員との差	▲ 13	▲ 18	▲ 14	▲ 25	▲ 21	▲ 19	▲ 36	▲ 10	▲ 4	▲ 7
賀茂地域 4校合計	募集定員	520	520	520	520	520	520	480	440	400	400
	入学者数	481	495	492	479	485	455	420	363	359	340
	定員との差	▲ 39	▲ 25	▲ 28	▲ 41	▲ 35	▲ 65	▲ 60	▲ 77	▲ 41	▲ 60

(参考) 全県合計	募集定員	22,240	21,920	22,325	22,085	21,890	21,815	21,535	21,020	20,460	19,340
	入学者数	22,346	21,989	22,326	21,949	21,942	21,687	21,279	20,661	19,507	18,112
	定員との差	106	69	1	▲ 136	52	▲ 128	▲ 256	▲ 359	▲ 953	▲ 1,228

2 賀茂地域の児童、生徒数の状況

高校入学年度	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
現在の学年	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
下田市	145	144	160	137	132	146	137	133	139	115	131	107
東伊豆町	83	83	68	71	58	69	63	60	57	51	58	55
河津町	63	57	61	60	51	64	44	55	44	48	50	42
南伊豆町	52	76	55	59	62	49	42	53	62	43	44	44
松崎町	41	47	35	41	43	28	38	29	32	33	26	22
西伊豆町	59	47	68	38	47	38	38	35	38	33	24	28
計	443	454	447	406	393	394	362	365	372	323	333	298

出典：学校基本調査

- ・小1～中3 令和3年5月1日現在の小学校、中学校在籍者の速報値
- ・高1～高3 各市町における中学校卒業者の実績値（R3年度高1入学=R2年度中学校卒業）

ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画
(静岡県立高等学校第三次長期計画)

— 平成40年度(2028年度)を見通して —

平成30年3月

静岡県教育委員会

入学者が著しく減少することも予想され、その場合には、授業、部活動、学校行事などの教育活動が制限されるなど、著しく教育環境が低下することが懸念される。

イ 中山間地域等の小規模校の基本方向

中山間地域等に置かれている高等学校については、近隣の学校との再編整備（統合）による教育環境の改善・充実が困難な場合には、教育を受ける機会を保障する観点等を踏まえ、引き続き、小規模校（1学級規模の生徒募集になった場合には分校等）として、教育環境の充実に努めるものとする。

小規模校における教育環境の充実については、一定の規模を有する高等学校（本校等）との学校間連携や外部の教育機関との連携を図ることで、多様な学習機会の確保に努めるものとし、その際、地理的な要因から連携が難しい地域もあることから、ICTを活用した遠隔教育システムの研究を促進する。

また、地域の協力なくして学校の存続は難しいことから、地元自治体との共通理解を図りつつ、協力・支援を得た方策等を検討する。具体的には、地域資源や地域人材を活用した機能的連携による教育内容の充実を図るとともに、他県において取組が広がっている地元自治体の移住施策とタイアップした県外からの生徒募集については、生徒の受入環境（下宿、寄宿舎、生活に関する支援等）が整っている地域の高等学校で実施し、成果や課題を検証する。

なお、1学級規模の分校等にあつては、前述した方策等を行った上でも、2年連続して入学者が15人を下回った場合には、授業、特別活動、部活動などの教育活動が制限されるため、高等学校教育の質の保障等の観点から募集を停止する。その際には、当該地域の生徒が他地域で高等学校教育が受けられるよう、例えば、都市部の高等学校へ通学するためのコミュニティバスや寄宿舎を整備するなどの方策について、地元自治体との調整を図るものとする。

(2) 県立高等学校の全日制課程の配置等の在り方

ア 県立高等学校の全日制課程の配置等の現状と課題

県立高等学校の全日制課程は、平成29年5月現在で88校（分校5校を含む）に設置されているが、生徒数の減少に伴い、多くの高等学校では規模の縮小化が進んでいる。引き続き、生徒数の減少が見込まれる中で、学校経営の観点等も踏まえ、充実した教育を実施するためには、一定の学校規模が必要であり、より良い教育条件の整備確立を図るための再編整備が必要になっている。

ただし、高校教育の機会均等を図る観点から、都市周辺部や中山間地等においても、生徒にとって通学可能な範囲に高校が配置されていることが望ましく、地域バランスや設置学科の実情等にも配慮する必要がある。

イ 県立高等学校の全日制課程の配置等の基本方向

(7) 適正規模の基本方向

県立高等学校の全日制課程の規模については、次のような理由から、生活集団としては、おおむね1学年6～8学級が適正であると考えます。

- ・教員・生徒間及び生徒相互間の望ましい人間関係の形成に資する規模であること。
- ・学年行事、学校行事等が円滑かつ効果的に実施できる集団の大きさを確保できる規模であること。
- ・各教科、特別活動等の教育課程の充実に必要な教職員数を確保できる規模であること。

ただし、適正規模については、これを「標準規模」ととらえ、専門学科等教育内容の特色や生徒及び地域の実情等を踏まえ、弾力的に考えるものとする。

(4) 適正配置の基本方向

県立高等学校の全日制課程の配置については、充実した教育を実施するには一定の学校規模が必要であること等から、1学年4学級以下になるような生徒数の少なくなる学校、当該学区又は地区の産業従業者数等に見合った規模になっていない学校等を対象に、発展的に将来を見据えた新構想高等学校への改編（再編整備）を検討する。

なお、1学年4学級以下の学校であっても、次のような観点から弾力的な対応を行うものとする。

- ・教育の機会均等に努める必要があり、過疎地域であること等の当該高等学校が置かれている地域の実情に配慮すること。
- ・県内唯一の学科であること等の設置学科の特質に配慮すること。
- ・通学の利便性や経済的負担等の問題もあることから、都市部だけに集中することなく、地域ごとに高等学校が適正に配置されるよう配慮すること。

(5) 適正な学級編制の基本方向

県立高等学校の全日制課程における1学級の生徒の数は、現行の「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき40人を標準としているが、今後、長期欠席生徒選抜を実施している高等学校のほか、過疎地域等に置かれている高等学校においては、中学校卒業生数の動向や進学状況等を踏まえるとともに、全県的な視野に立ってより適切な生徒募集計画を策定する観点から、弾力的な対応を検討する。また、専門学科等においては、必要とされる教育の充実を図る観点から、学校や学科の教育内容の実情等に応じて弾力的な対応を検討する。

(件名)

2-028 県立川根高等学校における川根留学の取組

(高校教育課 学校づくり推進班)

1 導入の経緯

川根地区の中学校卒業生数の減少が見込まれるなか、川根高等学校の学校規模の維持、活性化を目的に、平成26年度から県内の他地区から生徒を受け入れる「川根留学」を始めた。平成30年度からは、川根本町の意向及び協力のもと、県内で唯一、全国募集を実施している。

2 学校の概要

沿革	・昭和38年4月 静岡県立藤枝東高等学校 川根分校として設置 ・昭和41年4月 静岡県立川根高等学校として独立
学校規模	普通科2学級（1学年80人募集） 収容定員240人
在籍生徒数(R3)	1年：43人、2年：40人、3年：57人 計140人
出身中学校別 (割合) (R3)	①中川根37人(26.4%)、②本川根12人(8.6%)、③川根14人(10.0%)、 ④その他77人(55.0%) ※①②③は連携型中高一貫教育実施校（平成14年度～）
進路先 (R3.3卒業生)	①大学・短大13人(28.9%)、②専門学校4人(21.1%)、 ③就職17人(50%)、④その他0人(0%) 卒業生計34人

3 川根留学の取組

(1) 入学者数及び地域の中学卒業生数の推移 (R3.5.1現在)

	実績 ←			→ 推計								
	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
当該地区中卒者数及び 当該高校入学者状況	H31 R1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
川根、中川根、本川根	56	57	64	50	60	50	45	75	64	63	45	62
川根高校入学者数	61	41	43									
内訳(地区内)	29	16	19									
内訳(川根留学生:県内)	26	23	23									
内訳(川根留学生:県外)	6	2	1									
定員との差	▲19	▲39	▲37									

(2) 川根留學生の入学実績 (県内：平成26年度入学者選抜～、全国：平成30年度入学者選抜～)

入学年度	H30			H31 (R1)			R2			R3		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
留學生数(人)	22	14	8	32	24	8	25	18	7	24	17	7
うち県外	0	-	-	6	4	2	2	2	-	1	1	-
県外生出身地	-			東京・埼玉・神奈川(2)・山梨・愛知			神奈川(2)			大阪(1)		
(参考) 県外志願者	0人			8人			3人			1人		

(3)川根本町の取組み

全国募集開始にあたっては、川根本町が寄宿舎等の整備、公設民営塾の設置、奨学金の給付等を実施している。

4 川根留学に係る県外広報（主な取組）等

(1)令和3年度（計画） ※新型コロナウイルスの影響により随時変更

時期	内容
6月	・「地域みらい留学フェスタ」参加（オンライン）
7月	・川根高校魅力化推進連絡会（7、10、2月(予定)）（川根高校）
10月	・「地域みらい留学フェスタ」参加（予定） ・1日体験入学（予定）

- ・（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム主催「地域みらい留学フェスタ」等へ継続参加
- ・一日体験入学、オープンスクール等による川根留学生等への広報
- ・ZOH O等地域企業との連携による学校の魅力化

(2)令和2年度（実績） ※新型コロナウイルスの影響により当初予定から大幅に変更があった

時期	内容
4月	・川根本町が地域おこし協力隊(川根高校魅力化コーディネーター)を新規採用 ・川根高校が魅力化推進室を新設、町と連携強化した広報の取組み
6月	・川根高校魅力化推進連絡会（6、10、2月(予定)）（川根高校） ・「地域みらい留学フェスタ」参加（オンライン）（7～10月）
9月	・1日体験入学（川根高校） ・Eジャーナルにて地域と連携した魅力化の取組について情報発信
10月	・県外生徒募集説明会（浜松・静岡）
11月	・オープンスクール（川根高校） ・川根留学制度紹介冊子「私たちがつくる、かわねStories」作成（川根本町）
12月	・ZOH Oとのオンライン交流「インドウィンタープログラム」（川根高校） ・大学と連携した地域魅力化（川根高校、県立大学、静岡大学、常葉大学）
随時	・（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム(島根県)に引き続き加入し、同団体HP等で広報 ・SNS(インスタグラム、ツイッター、フェイスブック)を活用した広報活動の推進

(3)令和元年度（実績）

時期	内容
5月	・川根高校魅力化推進連絡会（5、10、12月）（川根高校）
6月	・移住相談会（横浜） ・「一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム」に加入し、「地域みらい留学フェスタ」（東京・名古屋）初参加（登録料は川根本町負担）
7月	・静岡県人会（東京） ・1日体験入学（川根高校）
8月	・移住フェア（東京）
10月	・県外生徒募集説明会（浜松・静岡）
11月	・オープンスクール（川根高校）
随時	・SNS（インスタグラム）を活用した広報活動の推進（県教育委員会広報戦略改善プロジェクトチームとの連携）

一人ひとりに一つひとつのオーダーメイドの個別指導

川根本町公営塾

Kawane Honcho Public Private School

川根本町公営塾は、共に夢を創造し、達成感を得られるよう
全力で支援していきます。



当塾の指導理念

私たちは一人ひとりの無限の「可能性」を信じています。
この混迷の世の中、いかなる社会環境の変化が訪れようと『生きる力＝社会に出て活躍する力＝誰かのために何かができる力』は、社会から普遍的に必要とされます。

- 🍃 勉強が出来るようになる
- 🍃 解らないことが解るようになる
- 🍃 志望校に合格する



これらは、とても大切なプロセスですが、ゴール(目的)ではありません。

習得した知識をもとに、主体的に創意工夫や状況判断ができなくては、社会のルールのなかで、自立した社会生活を送ることさえ困難な時代となってきています。

だからこそ、私たちは一人ひとりの「可能性」を拡げ、一つひとつの「選択肢」を増やしていくよう、良きサポーターとして、共に努力し、共に成長し、共に夢を創造して達成感を得ていくよう全力で支援していきます。

一人ひとりの中にあるその『ゴール』を共に導き出していけるように。私たちは信じています。
あなたの可能性を。





ごあいさつ

「川根本町公営塾」で
皆さんの将来の夢と可能性の
扉をさらに広げてください

静岡県川根本町長

鈴木 敏夫



川根本町では、平成28年度において0歳児から18歳までの子どもたちの「生きる力」「確かな学力」を育成するため、今後5年間を目標とする「川根本町教育大綱」を策定いたしました。

この大綱では「川根本町の良さを生かした、川根本町ならではの教育」を目指しておりますが、中でも特に子どもたちに「確かな学力」を身に付けていただくこと、将来の「夢」の実現のための進路指導を目的とし、町では平成30年5月から「川根本町公営塾」を開講いたしました。

この塾では、個々の学力や進路希望に合わせた多様なカリキュラムが用意され、中学や高校における授業を補完することによる学力の向上はもとより、子どもたちが目標とする将来の進路の実現を最大の目的としております。これから、川根・中川根・本川根の地元の3つの中学校の生徒の皆さん、そして川根高校生を含む町内の高校生の多くの皆さんに、この塾を積極的に活用していただきたいと望んでおります。

また、この塾は町内徳山の若者交流センター「奥流」にて開講されますので、現在川根高校において取り組まれ、大きな成果を挙げております「チューター制度」と合わせ、これから川根高校に入学される生徒にとっても、大きな魅力の一つになってくれるものと考えております。

さらに、塾の地元での開講によって、子どもたちの時間的・体力的な負担軽減はもとより、都市部のいわゆる「学習塾」と比較して大変安価な料金設定とさせていただきますので、経済的にも大変利用しやすいものであります。

中高生の諸君、そして保護者の皆様。自分の「夢」の実現に向かって、是非、この「川根本町公営塾」を大いに活用し、この塾から川根地域の「未来」を担ってくれる人材が数多く育っていただくことを心から期待いたしております。

知識があるからこそ、
知恵に変えられる

川根本町公営塾受託事業者
株式会社Birth47社長

片岡 大宜



現代社会は、急速に変化し続けており、地域格差や教育格差など様々な課題が在るも、それを解決する基本は人となります。子どもたちが未来の選択肢を拡げるには、知識と知恵が必要です。そしてそれを支援するのが学校や行政機関であり、地域の学校に特化した学習塾を町が委託運営することは、官民連携による新しい地方創生の1つのモデルであると考えます。

当塾は、川根地域の中学3年生と高校生へ、希望とする大学への進学や就職に向けての学習機会と、質の高い教育を受けられる環境、夢を持てる環境、安心して通わせられる環境をご提供できるものです。個々のレベルや受験科目等に応じて1人ひとりとカウンセリングを行い、現状把握と学力や希望進路に合った学習カリキュラムを作成し、効率的な学習ができるタブレット端末での映像授業と、現地講師による対話式個別対応学習を掛け合わせた「ハイブリッド個別指導」を展開します。

生まれ育った地域で高校卒業まで家族と暮らすことは、保護者の負担が軽減されるのは勿論のこと、子どもたちのより一層の学力向上と郷土愛が育まれ、将来の地域や故郷を担う人材や社会で活躍する人材の育成が図られるものと考えます。

町民の皆様と一体となって、地域の子どもの学力と利便性の向上に努めて参ります。

当塾案内図

映像指導スペース

タブレットを駆使した授業スタイルで効率よく成績UPが可能に。



入退室管理システム

入退室時にカードをかざすと登録したアドレスにメールが届くシステムを導入しております。

プリンター完備

必要な資料やテキストを自由にコピーし、学習できます。



パソコンコーナー

調べたいものが気軽に使えるようになっています。

資料コーナー



教室

資料コーナー

豊富な参考書に加え、大学資料や受験情報誌など数多く取り揃えております。



個別指導スペース

苦手分野や問題を解くコツなどを細かく丁寧に指導します。

当塾のシステム

指導理念に基づいた指導を行っております。生徒との関わり合いを大切にし、カウンセリングをベースとしたスケジュールを立て、一人ひとりに一つひとつの教育を行うことで、夢への近道のため将来に向けた質の高い時間を提供させていただきます。当塾では個別指導での苦手克服や基礎対策を行うことで生徒一人ひとりに必要な夢への実現を目指しております。

公営塾利用料: 3,000円/月

指導までの流れ





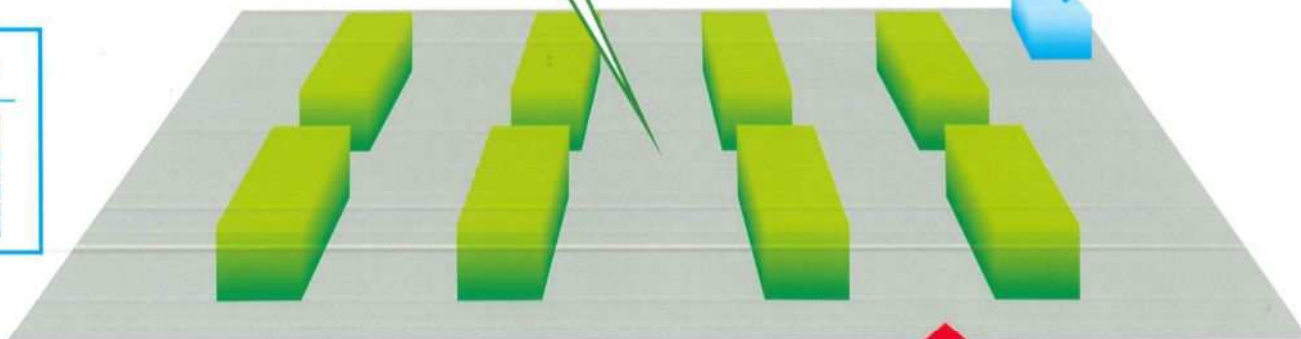
とときに
を導入

自習スペース

辞書や参考書も用意し、一人ひとり集中できるような空間としています。



資料コーナー



自習室

School System

個別指導



映像指導

基礎や学校授業のフォローを行います。
時間をかけてしっかりとした土台をつくります。

質の高いハイレベルな指導を短時間で集中して
効率的に行います。



ハイブリッド
個別指導が有効!



最先端の
個別指導



最先端の
映像指導



最強の
ハイブリッド
個別指導に!

ハイブリッド個別指導って?

大切な土台をつくる個別指導と、最先端の映像指導を行うことで、より効率的で質の高い指導が可能になります。勉強に対する土台も身に付き、質の高いハイレベルの授業も行え、わからない部分が見つかったも個別指導で解決できます。より効率的に短期間で成績が上がる、生徒のことを一番に考えた指導スタイルを取り入れております。



個別
指導

夢を確実に叶えるため、
それぞれに合った勉強法を。

一人ひとりの学力・進路に合わせたカリキュラムを
オーダーメイドで組み立てます。学校授業の補習や復習、
定期テストや入試の対策まで、オールラウンドで対応、
自学自習力を育成し、社会で活躍できる力を身につけます。



個別指導の特長

1 先生がそばでサポート指導！

一般の塾と違い黒板は使いません。一人ひとりに一つひとつのカリキュラムを進める個別指導は、生徒の表情を見ながら先生がサポート指導を行います。つまづいた時、質問しにくい時でも、しっかりと学習をバックアップします。

2 一人ひとりにオーダーメイド授業

教科書を見ても、テキストを見てもわからない、自分には何が足りないのかわからない等、カウンセリングを基に生徒に合ったカリキュラムを立てることで、理解度や実力に基づいたレベルの授業を行います。

他の生徒に合わせないから『わからない』がなくなり、勉強することでしっかりと実力に蓄積されていきます。

3 生徒が求める細かな対応

生徒の目標が違うなか、『学校のテスト対策』や『志望する大学の試験対策』等、その生徒に必要な授業を行うことで、目標を達成できる喜びと達成感が生まれ、よりやる気が先に進みます。

4 自学自習力の育成

自分がわからない所や苦手の科目等、大抵の場合ノートの取り方が悪く、どこを間違えたかわからないことがあります。しっかりと復習できるノートの取り方を指導することで、何を学び理解できているかを見直し自学自習できるようになります。



5 目標達成させる生きる力を身につける

私たちは生徒に戦略力・実践力・プレゼン力を身につけてほしいと考えております。

これが『達成力』に繋がります。学力の場合、これを『自学自習力』と言います。

◆戦略力：期日から逆算し、することとしないことを明らかにし、目標達成のための計画を立てる力

◆実践力：目標達成のために実際に自分が行動する力

◆プレゼン力：誰かに何かを伝える力があり、誰かにその何かを納得させる力

子ども達が潜在的に持つこの力を引き出すことにより、将来の職業選択の可能性を広げ、生きる力を身につけてもらいます。



映像指導

時間を無駄にせず
スムーズで
質の高い授業を。

最先端の映像授業では、高校受験、センター試験及び
2次試験に向けた対策を行います。
短期間でやる気を結果に結びつけます。



映像指導の特長

1

最高級の授業で、
最大限の効果を！

講師陣は大手予備校で長年の経験を積んだ「教えるプロ」です。優れた講師に習えば、問題集で演習したときの正解率にも大幅にアップ！「わかる」だけでなく、「できる」ようにすることが、講師陣の使命と考えています。

2

自分がつまづいた学習を、
いつでも復習できる。

中3から高3まで入試や試験対策に不安がある場合、いつでも何度でも授業の難易度に合わせて復習可能！
つまづく時間を短縮し、授業学習の効率をしっかりと高めます。

3

倍速プレーヤー。
濃縮授業で差をつけよう。

倍速対応のプレーヤー機能もあるので濃縮授業を1/2の時間で受講することもできます。電子ホワイトボードの濃縮授業を1/2の時間で受講できれば、それだけで何倍もの効率の良さを実現できるのです。もし2.0倍が早すぎる場合は、1.0・1.4・1.7倍から選ぶこともできます。

4

電子ホワイトボードで効率化。
これが奇跡の理由です。

電子ホワイトボードを活用することで、先生や生徒の板書時間を排除。図解もとても見やすく、わかりやすくなっています。板書を写したりノートをとる時間を効率化し、その分の時間をわかりやすい授業に徹底的に注ぎ込む。これこそ電子ホワイトボードだからこそできる、最大限の効率化です。

講座情報 (一部抜粋)

英語

●高校入試英語	／約70分×10回
●英文法の神	／約60分×109回
●英語構文の神	／約60分×16回
●センター英語	／約60分×52回
●近畿大英語	／約100分×6回
●立命館英語	／約70分×5回
●早大英語	／約90分×10回
●国公立大英語	／約90分×15回
●京大英語	／約100分×10回

数学

●公立高数学標準	／約60分×10回
●数学aIA	／約100分×53回
●数学aIB	／約100分×59回
●スパイラル数学初歩IA	／約60分×22回
●スパイラル数学初歩IB	／約60分×36回
●スパイラル数学aIA	／約80分×60回
●スパイラル数学aIB	／約80分×60回
●スパイラル数学aIIC	／約80分×45回
●センター数学	／約100分×18回

国語

●必須現代文	／約80分×30回
●センター現代文	／約80分×10回
●明治大学現代文	／約60分×10回
●青山・立教大学現代文	／約80分×10回
●小論文対策講座	／約80分×19回
●AO・推薦入試対策講座	／約60分×15回
●古文入門	／約60分×30回
●最難関大の古文	／約60分×5回
●基礎漢文	／約80分×9回

理科

●物理基礎講義	／約150分×13回
●BASIC物理	／約60分×28回
●二次私大物理講義	／約70分×19回
●センター原子物理特講	／約140・90分の2回
●化学基礎講義	／約60分×16回
●生物基礎講義	／約60分×10回
●Hi-Level生物I	／約60分×20回
●遺伝子別講義	／約60分×8回
●生物論述の書き方	／約45分×1回

社会

●日本史講義	／約80分×58回
●日本史文化史	／約70分×15回
●センター対策日本史	／約60分×24回
●日本史難関私大演習	／約70分×35回
●日本史難関私大演習(文化史)	／約70分×11回
●日本史テーマ別演習	／約80分×15回
●センター世界史講義	／約80分×35回
●センター世界史演習	／約60分×23回
●世界史講義	／約80分×35回
●世界史講義文化史	／約60分×5回
●世界史演習	／約70分×23回
●世界史難関大論述演習	／約60分×31回
●センター地理	／約90分×25回
●二次私大地理	／約60分×10回
●地理論述	／約60分×11回
●センター現代社会	／約60分×35回
●新・センター現代社会	／約80分×34回
●センター政治経済講義	／約80分×31回
●センター論理講義	／約60分×38回



進路指導

それぞれの夢の道を
歩むために。

進路について悩んだ時、
成績が伸びない時…
生徒の気持ちに寄り添い、
しっかりアドバイスします。

進路指導について



塾長

大山 敦人

川根本町公営塾の目指すこと。それは、川根地域に住む子どもたちの「夢」や「目標」へのサポートをしていくことです。夢や目標は思っただけでも行動しなければなりません。まず、思い続ける事、その次に行動する。そして、その行動を楽しむことで夢や目標を達成できると思います。私たちは、生徒の学力・進路に合わせた個別指導、難易度に合わせて学習効率を高めることのできる最先端の映像授業にて一人ひとりをサポートし、夢や目標達成のお手伝いをしていきます。

たくさんの方々の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



- 夢へと走る為に -

当塾では、一人ひとりの夢や気持ちを大切にすることを心がけ、今の学力・状況を把握した上で、『大学進学』や『成績アップ』等、夢を叶えるサポートを面談を通じて行っています。

定期的な生徒との二者面談で生徒に合ったカリキュラムを立て直すことで、効率的な指導が可能になります。生徒のメンタル面のフォローや保護者の方々の悩みなどもお気軽にご相談頂けるように努めております。

なんでもQ & A (よくある質問をご紹介します)

Q. 塾に通う費用はいくら必要ですか？

A. 塾でかかる費用は月額3000円をご利用可能となります。
低価格の利用料金でご利用いただけます。

Q. 一人ひとりに違うカリキュラムはどう決めているのですか？

A. まず、入塾頂く前に保護者の方を含めた三者面談を行います。
そこで今の実力と志望校や夢に向けたスケジュールを逆算し、
一人ひとりの学習カリキュラムを組み立てます。

Q. 大学進学は考えていないのですが通っても良いのですか？

A. 大丈夫です。皆さんの将来の選択肢を広げるための公営塾ですので、
学校の補習や就職試験対策などで通って頂くことも問題ありません。

Q. 塾の勉強についていけるのか心配です。大丈夫でしょうか？

A. 大丈夫です。当塾は生徒一人ひとりのペースに合わせたカリキュラムで行います。
他の子に合わせたりしないので、しっかりと実力がついて勉強が楽しくなるはずです。

Q. 子どもが本当に塾に行っているか不安です。

A. 当塾では入退室システムを導入しておりますので、生徒が入退室された時に
事前に教えて頂いたメールアドレスに通知が届きます。
万が一、何かあっても連絡が来るので安心して通って頂けます。

Q. 難関大学への進学を考えているのですが
対応できますか？

A. 定期テスト対策のみではなく、センター試験やそれぞれの大学に合わせた対策も行っていきます。
個別指導と面談で合格への道を効率的にサポートしていきます。

ご不明な点はお気軽に
お問い合わせください！





ACCESS



川根本町公営塾 見学会

川根・中川根・本川根の地元の3つの中学校の生徒、川根高校を含む町内の高校生で学力の向上や将来の進路についてご検討されている方、随時お問い合わせ下さい。60分前後にて施設のご案内、システム等をご説明いたします。

一人ひとり一つひとつのオーダーメイドの個別指導

お申し込み・お問い合わせ

川根本町公営塾

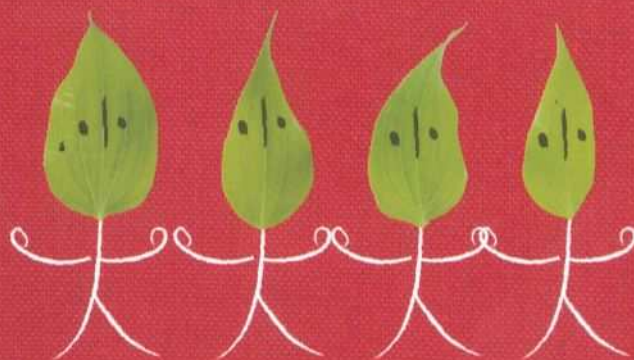
☎0547-57-1087

Kawane Honcho Public Private School

川根本町若者交流センター「奥流」榛原郡川根本町徳山1547-31
URL...<http://kawanejuku.com/>

川根本町若者交流センター

奥おうる流



川根本町教育委員会



みんな集まれー！
こころ一つになって
オールを漕ごう！



南アルプスの美しい自然に囲まれた奥流。多様な学習・サークル活動・文化活動など様々な活動の拠点として活用できます。県内外問わず、利用者を募集しています。町内の他の施設を利用して、合宿などを行うことも可能です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

教育実習生、看護実習生の受入れ
川根高校に通う他地区出身の高校生の寄宿や、町内で実習や研修を行う大学生の受入施設としても活用中。奥流は、町内外の若者の楽しい交流の場となっています。



1F



食堂



多目的室



食堂備品



2F



和室・ミーティングルーム1



ミーティングルーム2



学習演習室
WiFi ネット
環境完備



交流スペース



シャワールーム



個室(冷暖房完備)



洗濯室

- 食堂は、一度に40人の食事が可能です。
- ミーティングルーム2と学習・演習室は、仕切りをとり、一つの部屋としての使用が可能です。
- 多目的室、ミーティングルーム、学習・演習室は、畳を敷きつめて、和室としての使用が可能です。(ゼミやサークルの合宿なども可)
- ベットは備え付けマットレスのみ。枕・毛布・布団はありません。寝具は各自でご用意ください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1階 | 2階 |
| ○シャワールーム …… 3室 | ○シャワールーム …… 3室 |
| ○個室 …… 17室 | ○個室 …… 18室 |
| ○洗濯機 …… 4台 | ○洗濯機 …… 4台 |

【最大宿泊収容人数】

- 個室… 全35室 ○ 2F和室(約20畳)… 15名程度宿泊可能
- その他… 1F多目的室の簡易畳を利用して10名程度宿泊可能

【各会議室の利用人数の目安】

- 1F多目的室… 15名~20名程度
- 2F多目的室(和室)… 20名程度
- 2F学習演習室… 10名~15名程度

不明な点は、お気軽にお問い合わせください。

アクセス マップ

川根本町
大井川
静岡
JR東海道本線
JR東海道新幹線
東名高速道路
新東名高速道路
大井川鐵道
浜松

▲至東京都
▲至名古屋市

●接叺湖
●長島ダム・四季彩公園
●あぶといちしろ
●千頭温泉
●千頭駅
●音戯の郷
●駿河徳山駅
●川根高校
●不動の滝
●不動の滝自然広場
●オートキャンプ場
●下泉駅
●塩郷の吊橋
●くのわき親水公園キャンプ場
●かわねおんせん ささまど
●家山駅
●島田金谷 I.C.
●新金谷駅
●金谷駅
●大代 I.C.
●向谷 I.C.
●島田駅
●藤枝駅
●藤枝 I.C.
●焼津 C
●藤枝バイパス
●静岡 I.C.
●静岡バイパス
●静岡駅
●静岡 I.C.
●清水 I.C.
●東名高速道路
●JR東海道新幹線
●JR東海道本線

●池の谷キャンプ場
●三ツ星天文台
●三ツ星キャンプ場
●フォーレなかかわね茶茗園
●フッドハウスおろくぼ

※簡略された地図です。
地図の縮尺は一部調整してあります。

利用予約・問い合わせ先

川根本町教育委員会教育総務課

TEL: 0547-58-2555
FAX: 0547-59-4025

E-mail
kyouiku@town.kawanehon.lg.jp

休館日
12/29~1/3

使用料一覧	
区分	使用料
個室	1月当たりの使用日数が20日以上の場合 1月につき 40,000円(食事を含む)
個室	1月当たりの使用日数が20日未満の場合 1日につき 2,000円(食事を含む)
多目的室 ミーティングルーム1 ミーティングルーム2 学習・演習室	1日につき 3,000円 (冷暖房を使用する場合は、プラス1,000円)
食事	朝食: 1食 350円 夕食: 1食 450円

※寝具は、使用者自身が手配してください。費用は使用者負担となります。
 ※使用者や使用目的により、減免が可能です。申し込み時に確認をしてください。
 ※町内の若者との交流目的という事項に適合している事業であれば一般の利用も可能です。

施設の概要

目的: 町内外の若者の交流を通して
豊かな人間性を育むことで、町の活性化に寄与する。

名称: 川根本町若者交流センター「奥流」(おうりゅう)

- 奥大井に向かって若者が流れるように集まるように。
- 船を漕ぐオールを心一つに漕ぎながら、切磋琢磨する場となるように。
- オール=ALL(みんな集まれ~!)

【軽量鉄骨造2階建】
 建築面積: 約420㎡(床面積: 1階約400㎡、2階約400㎡、合計800㎡)

施設の住所

〒428-0301 静岡県榛原郡川根本町徳山1547-31
 TEL・FAX: 0547-57-1001

鉄道をご利用のお客様

● JR金谷駅で大井川鐵道に乗り換え約60分。
「駿河徳山駅」下車。徒歩15分(約1km)

● 新東名高速道路「島田・金谷I.C.」より国道473号線経由約55分
新東名高速道路「静岡SAスマートI.C.」より、国道362号線経由約90分

● 富士山静岡空港から大井川鐵道金谷駅まで車で約10分

お車をご利用のお客様

● 南アルプスあぶとライン
● 接叺温泉
● 奥泉
● もりのくに
● 千頭
● 駿河徳山
● 大井川鐵道
● 金谷
● 静岡
● 東京

● 接叺温泉
● 奥泉
● 千頭
● 徳山
● 奥流
● 下泉
● 島田金谷
● 藤枝岡部
● 静岡SA
● 堀越
● 大代
● 向谷
● 広幡
● 堀越
● 袋井
● 掛川
● 焼津
● 静岡
● 東京

● 東名高速道路

2-029 県立伊豆総合高等学校土肥分校の魅力化

(高校教育課 学校づくり推進班)

1 概要

県立土肥高等学校においては、所在地域の中学校卒業生数の減少を受けて、当該地域の生徒の教育を受ける機会を保障しつつ、平成29年度に分校化を実施した。

対象校	県立土肥高等学校（普通科）
本校	県立伊豆総合高等学校（工業科、総合学科） ・同一市内（伊豆市）の高校であること。 ・土肥高校は商業科を併置しており、伊豆総合高校の総合学科（商業系列）と教育内容の連携が可能である。

その後、平成30年度の入学者数が6名となり、静岡県立高等学校第三次長期計画に掲げる募集停止の基準人数(15名)を下回ったことから、地域の連携の下、伊豆総合高等学校土肥分校の魅力化を一層推進するため、土肥分校魅力化推進協議会を設置し、平成30年10月に第1回協議会を開催した。

2 協議会構成員（令和3年度）

- 静岡県立伊豆総合高等学校土肥分校 校長、副校長、教頭、事務長、後援会会長、後援会副会長
- 伊豆市立土肥小中一貫校 校長
- 伊豆市教育委員会 教育部長、学校教育課長
- 静岡県教育委員会高校教育課 学校づくり推進班長、学校づくり推進班主幹

3 協議題及び開催スケジュール

	開催時期	協議題
第1回	平成30年10月	○ 土肥分校の取組について、土肥分校の更なる魅力化について 等
第2回	平成30年11月	○ 第1回の内容を踏まえた土肥分校の取組(計画)について ○ 土肥分校へのサポートについて 等
第3回	令和元年5月	○ 入学者選抜の結果について、今後の対応について 等
第4回	令和元年10月	○ 地域及び行政が一体となった今後の取組について
第5回	令和2年6月	○ 下宿の公募について
第6回	令和2年7月	○ 下宿運営協議会の設置について
第7回	令和3年6月	○ 下宿整備の成果について ○ 県外募集の事例共有

4 今年度の取組

- 土肥地区外等広範囲からの生徒受入の推進（通学補助、下宿等の整備）
- eスポーツ部、ソフトテニス女子の裁量枠など特色ある活動の実施
- 特色ある普通科教育の研究（観光、演劇、遠隔授業関係）
- オンライン・ハイスクールによる地域資源の活用による学びの充実

《参考 今後の生徒数の推移》

	令和3年度学年→											
	高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	
所在地域中卒者数及び当該高校入学者の状況	30	31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
旧土肥町のみ	19	20	18	12	15	11	23	10	10	11	12	9
募集定員	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
入学者数	6	21	7	16								
定員との差	▲29	▲14	▲28	▲19								

土肥ペンション(土肥分校下宿)の運用開始について

(高校教育課学校づくり推進班)

1 運営方法

- 土肥分校下宿運営協議会(土肥分校後援会の下部組織)と土肥ペンションが使用協定
- 土肥ペンションと生徒が入居契約(保護者が連帯保証)
- 学校は生徒指導等で協力

2 運用開始

令和3年4月1日 ※3月27日から主に週末を利用して順次入居開始

3 初年度入居者

令和3年度土肥分校入学者のうち、希望する者(男1名、女3名)

【出身校】男子：島田市初倉中

女子：松崎町松崎中、富士市吉原北中、伊豆の国市長岡中

4 費用

総額：80,000円/月

保護者負担 40,000円/月(保護者が直接土肥ペンションへ支払い)

伊豆市補助 40,000円/月(伊豆市より協議会へ補助金交付され、協議会が土肥ペンションへ実績に応じて支払い)

食費(平日・朝夕食) 40,000円	室料、光熱水費等 40,000円
保護者負担 40,000円	伊豆市補助 40,000円

5 設備及び食事等の待遇

- ユニットバス、冷蔵庫、エアコン付き一人部屋：男子1階、女子3階
- 大浴場：隔日で男女入れ替え、個室のユニットバス(シャワー)は毎日使用可
- 食 事：平日の朝食、夕食を提供
土日祝日は別料金でペンションが提供又は地元の弁当屋が提供(調整中)
昼食は学校近くのコンビニで購入又は地元の弁当屋が学校へ配達
- 洗濯機：男子3階、女子2階
- 通 学：各自でバス又は自転車
- 閉寮日：年末年始(12/29～1/3)のみ閉寮

6 その他

- 土肥ペンションの最大収容可能人数は2人相部屋で26名(13部屋)
- 平日の昼食や土日祝日の食事については、別途個別の費用が発生するので、学校は極力関与せず、生徒本人と土肥ペンション、保護者へ委ねる方針
- 協議会の事務の大部分を実際は学校事務室で担っているため、現場に負担感がある

2-030 県立浜松湖北高等学校佐久間分校の魅力化

(高校教育課 学校づくり推進班)

1 概要

県立佐久間高等学校においては、所在地域の中学校卒業生数の減少を受けて、当該地域の生徒の教育を受ける機会を保障しつつ、平成29年度に分校化を実施した。

その後、平成31年度の入学者数が14名となり、静岡県立高等学校第三次長期計画に掲げる募集停止の基準人数(15名)を下回ったことから、地域の連携の下、佐久間分校の魅力化を一層推進するため、令和元年7月に佐久間分校魅力化推進協議会を設置した。

2 佐久間分校魅力化推進協議会の構成員

- 静岡県立浜松湖北高等学校 校長、事務長
- 静岡県立浜松湖北高等学校佐久間分校 副校長、教頭、PTA会長、同窓会正副会長
- 佐久間分校魅力化委員会 地元NPO、自治会長、中学校長、小学校長、協働センター所長、東栄町地域支援課長
- 浜松市教育委員会 教育部次長、企画グループ長
- 静岡県教育委員会高校教育課 学校づくり推進室長、企画班教育主査

3 【令和元年以降】魅力化推進協議会の開催スケジュール

年度	回	開催時期	協議題
令和元年度	第1回	R1、7月	○ 佐久間分校の取組について ○ 佐久間分校の更なる魅力化について 等
	第2回	R1、10月	○ 寄宿舍運営協議会による啓成寮再開に向けた具体的取組案について(費用、役割、課題など)
令和2年度	第1回	R2、6月	○ 佐久間分校の募集継続について ○ 佐久間分校の更なる魅力化について 等

4 令和3年度生徒募集の結果

2年連続して入学者が15人を下回った(H31:14人、R2:14人)が、地元や学校からは募集継続の要望は強く、財政協議・出野副知事協議を経て、特例的に令和3年度の募集を実施することとなった。それを受けて学校の魅力化を推進した結果、令和3年度は19人(新入寮生9人を含む)の入学者を確保した。

《参考 今後の生徒数の推移》

高校名	所在地域中卒者数及び当該高校入学者の状況	令和3年度学年→														
		高3	高2	高1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1			
佐久間高校 →H29から分校	旧佐久間、水窪町	31	32	26	28	18	11	19	18	11	9	19	9	13	11	8
	募集定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	26	19	24	14	14	19									
	定員との差	▲14	▲21	▲16	▲26	▲26	▲21									

※入学者数は所在地域以外からの入学者も含む

確定値← →見込み及び推計値

児童生徒数はR3.5.1現在(学校基本調査)

啓成寮 周辺施設



佐久 歴史と民謡の郷会館



JR 中野大輔駅



上島キャンパス



進入交差点



静岡県立浜松湖北高等学校
佐久間分校 啓成寮

T: 431-3908
静岡県浜松市天竜区佐久間町中野683-1
TEL: 053-965-0065 FAX: 053-965-0355
URL: [www.edup.shizuoka.jp/sakuraash/home/ssi](http://shizuoka.jp/sakuraash/home/ssi)
E-mail: sakuma-b@edu.prel.sizuoka.jp



佐久間分校寄宿舎

啓成寮

入舎のご案内

Student Dormitories 2021

静岡県立浜松湖北高等学校佐久間分校



啓成寮 舎訓「協力」

どんな人でも、持っている力は完全ではない。人の弱いことは、すべての人に対し温かい愛情を持ち、大きな理想に向かって力をあわせ努力することにある。お互いを尊重し、人として信頼しあうことが協力の基本である。

舎訓 協力

どんな人でも、持っている力は完全ではない。人の弱いことは、すべての人に対し温かい愛情を持ち、大きな理想に向かって力をあわせ努力することにある。お互いを尊重し、人として信頼しあうことが協力の基本である。

啓成寮 概要 memo



洗濯機・乾燥機

家具・家電付き

居室にエアコン・ベッド・机・イス・収納等があります。共有で冷蔵庫・洗濯機・乾燥機・テレビ・レンジ・炊飯器・トースター・電気ポット・食器洗浄機・掃除機等があります。布団類と衣類、日用品があれば即入室できます。引っ越しも簡単です。



食堂

食事付き

食堂があります。調理家電は最新のものを取り揃えています。調理器具や食器類も揃っています。食材・調味料等は寄宿舎運営協議会が準備します。舎監や寮生、協議会の人と協力して食事の準備や片付けを行います。いつでも温かい食事ができます。



病院

安全・安心

学校まで徒歩30分、病院・交番まで徒歩7分です。在寮時は舎監がおり、いざというときに対応します。防犯カメラも取り付けてあります。22時消灯、6時30分起床で規則正しい生活をし、朝晩に舎監が健康観察を行い体調管理します。

入寮費 5,000円
寮費 月40,000円 (食費・舎監費等)
※入寮費・寮費とも令和2年度の場合

申請から選考までの流れ

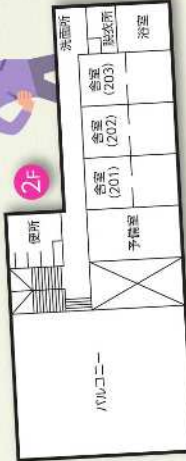
- 入寮希望者は、寄宿舎運営協議会に申請書を提出する。
- 寄宿舎運営協議会は、入寮を許可する者を選考し、決定する。
- 対象は通学困難な男子生徒。定員は12人。
- 女子生徒が入寮を希望する者は寄宿舎運営協議会に要相談。
- 土曜日・日曜日・祝日、その他校長が定める日は閉寮日。閉寮日に佐久間への滞在を希望する者は寄宿舎運営協議会に要相談。

寄宿舎については「寄宿舎運営協議会」が運営しています。

寄宿舎「啓成寮」平面図



バルコニー



2F



1F



居室

バルコニーの空いているスペースで部活動の自主練習もできます。



廊下



居室

寮に入る前より勉強する時間が増え、しっかりと睡眠時間が確保できるように変わりました。



学習室



玄関



洗濯するときは乾燥機もあるのでとても便利です。他にも洗濯機がたくさん揃っています。快適です。

浴室



寄宿舎 概要

敷地：約1,500㎡
建物：鉄筋コンクリート 2階建
建築面積330.75㎡
延床面積505.72㎡
[1階] 厨房・食堂・浴室等
居室3室・学習室
[2階] 居室4室(予備含)
浴室・バルコニー等

